

Sun Secure Global Desktop 4.4 リ リースノート

Sun Microsystems, Inc.
www.sun.com

820-2811-10
2007 年 10 月, Revision 01

このマニュアルに関するコメントの送付先: <http://docs.sun.com/app/docs/form/comments>

Copyright 2007 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. All rights reserved.

米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします) は、本書に記述されている技術に関連する知的財産権を所有します。特に、この知的財産権はひとつかそれ以上の米国における特許 (<http://www.sun.com/patents> を参照)、あるいは米国およびその他の国において追加または申請中の特許を含んでいることがあります、それらに限定されるものではありません。

本書およびそれに付属する製品は、その使用、複製、頒布、および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。サン・マイクロシステムズ株式会社およびそのライセンサ(該当する場合)の書面による事前の許可なく、本製品および本書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。

フォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company, Ltd. が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

Sun、Sun Microsystems、Sun のロゴマーク、Java、JavaScript、SunSolve、JavaServer、JSP、JDK、JRE、Sun Ray、および Solaris は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems 社の商標または登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャーに基づくものです。

Adobe は、Adobe Systems, Incorporated の登録商標です。

OPEN LOOK および Sun Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザーおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザーインタフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは OPEN LOOK GUI を実装する、あるいは米国 Sun Microsystems 社の書面によるライセンス契約書に適合する、米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

U.S. Government Rights Commercial use. Government users are subject to the Sun Microsystems, Inc. standard license agreement and applicable provisions of the FAR and its supplements.

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われらないものとします。



Please
Recycle



Adobe PostScript

目次

はじめに ix

- 1. システム要件とサポート 1
 - ハードウェアの要件 2
 - オペレーティングシステムの要件 3
 - オペレーティングシステムの変更 3
 - Web サーバーの要件 5
 - ネットワークの要件 5
 - クライアントの要件 6
 - SGD 拡張モジュールの要件 8
 - サポートされるアプリケーションタイプ 10
 - サポートされるプロトコル 10
 - セキュリティーサポート 11
 - プロキシサーバーのサポート 12
 - サポートされる認証方式 13
 - SecurID 認証 13
 - サポートされる LDAP ディレクトリサーバー 13
 - 印刷サポート 14
 - スマートカードのサポート 14

2. 新機能および変更点 17

version 4.40 の新機能 17

SGD Administration Console 17

デスクトップ直接 URL 19

ローミングプロファイルのサポート 20

アイドル状態のユーザーセッションの自動タイムアウト 21

ネットワークアドレスを指定するためのネットマスクフィルタ 22

ウィンドウ管理キー 22

Solaris 10 OS Trusted Extensions のサポート 22

パスワードとトークンのグローバル管理 23

サーバー証明書のサブジェクト代替名 23

「タイムゾーンマップファイル」属性 23

version 4.31 の新機能 24

X アプリケーションでのオーディオサポート 24

Microsoft Windows Vista でのリモートデスクトップのサポート 25

SSH クライアントの設定 25

version 4.30 の新機能 25

デスクトップの「スタート」メニューまたは「起動」メニューとの統合 25

シングルサインオン 26

プロファイルを使用したクライアント設定の管理 27

モバイルプロキシサーバー設定 28

SGD Client で拡張されたコマンド行 28

手動でインストールできる SGD Client 29

新規 X サーバー 29

新しい「X セキュリティー拡張機能」属性 30

UNIX プラットフォーム、Linux、および Mac OS X クライアントの PDF 印刷 30

UNIX プラットフォームおよび Linux アプリケーションのクライアントドライ
ブマッピング 31

Windows アプリケーションでのシリアルポートのサポート	32
Microsoft Windows XP Professional でのリモートデスクトップのサポート	33
Windows Server 2003 ターミナルサービスを利用したコンソールセッションへの接続のサポート	33
初期接続のセキュリティー	33
承認されていないサーバーからのクライアントの保護	34
コピー&ペーストの制御	34
アプリケーションサーバー認証用の SecurID のサポート	35
ローカライズされたユーザーインタフェース	35
ドキュメントの翻訳	36
Expect スクリプト内の言語サポート	36
version 4.40 での変更点	36
サポートされるインストールプラットフォームの変更	37
旧クライアントが今後取り除かれることについて	37
ログインと認証の順序	37
サーバー証明書と複数の外部 DNS 名	38
Web サービスの変更	38
Kerberos キャッシュのフラッシュ	41
tem status コマンド	41
SGD Client はデフォルトで Java テクノロジを前提としない	41
SGD Client はクライアントデバイスの情報をログ記録する	42
名前の変更されたコマンド行引数	43
「Windows NT Domain」属性	43
名前の変更された PDF プリンタ	43
ウィンドウが閉じるときの警告	44
クライアントプロファイルから削除された SOCKS プロキシ	44
管理者の Webtop から削除された管理ツール	44
ログインスクリプトの変更	45

ロケールに応じた入力方式の有効化	45
SGD Client 終了のタイムアウト	45
version 4.31 での変更点	46
Solaris x86 プラットフォームの SecurlID 認証	46
統合モードでの複数の SGD サーバーのサポート	46
アレイルート	46
SGD 起動スクリプト	47
信頼されない初期接続メッセージ	47
無効になった Windows キー	47
version 4.30 での変更点	48
インストール可能な単一パッケージ	48
SSL デーモンの常時稼働	48
UNIX プラットフォーム、Linux、および Mac OS X クライアントデバイスの ユーザー設定ファイル	48
「ウィンドウを閉じるアクション」(--windowclose) 属性	48
UNIX プラットフォームのユーザー認証用の PAM のサポート	49
PDF 印刷	49
Active Directory 認証用のクライアント証明書	50
SGD 証明書ストア	50
ライセンス管理	50
アプリケーションの接続方法	50
同時 Webtop 接続属性	51
メインフレーム (3270) アプリケーション	51
3. サポート情報、既知の問題、バグ修正、およびドキュメントの問題	53
サポート終了	53
既知のバグと問題	54
602423 - Return キーとキーパッド Enter キーの問題	54
6443840 - プロキシサーバーの自動設定スクリプトが失敗する	55

- 6448990 - バックスラッシュキーと円記号キーの問題 55
- 6456278 - root ユーザーで統合モードが動作しない 56
- 6458111 - 統合モードを使用すると GNOME メインメニューがクラッシュする 57
- 6461864 および 6476661 - GNOME デスクトップで自動ログインモードと統合モードが失敗する 57
- 6468716 - GNOME セッションでキーボードを使用できない 58
- 6470197 - SGD Web サーバーモジュールのコンパイルに失敗する 58
- 6476194 - SGD Client 用の KDE デスクトップメニュー項目が表示されない 59
- 6477187 - Microsoft ネットワーク用クライアントがないとクライアントドライバマッピングが失敗する 59
- 6481312 - アップグレードすると使用可能な接続タイプがリセットされる 60
- 6482912 - SGD Client が自動的にインストールされない 60
- 6493374 - 入力方式ウィンドウ内の非 ASCII 文字 61
- 6542943 - Sun Java Plug-In ツール Version 1.5 を使用すると Firefox が異常終了する 61
- 6555834 - Java テクノロジがブラウザでは有効になっているが、クライアントデバイスにインストールされていない 62
- 6591516 - Webtop のページ切り替えが Internet Explorer で動作しない 62
- 6592560 - Administration Console のオンラインヘルプを HTTPS で使用できない 62
- 6598048 - Windows アプリケーションでカナダ系フランス語用キーボードが正しくマッピングされない 63
- 6605404 - Tomcat リソースファイルの場所の変更 63
- 6609001 - 停止しているセカンダリサーバーを Administration Console を使って切り離すことができない 64
- 6609518 - セカンダリサーバーから Administration Console を実行している場合のアレイへの追加 64
- 6610760 - PDF プリンタのカスタム設定が Windows アプリケーションに適用されない 64

6611502 - セカンダリサーバーからオブジェクトの作成と変更を行う際のエラー	65
Sun Type 7 日本語キーボードの問題	65
「スタート」メニューの項目がアルファベット順に表示されない	66
Sun Java Desktop Systems で「起動」メニューのエントリが表示されない	66
version 4.40 で修正されたバグ	66
version 4.31 で修正されたバグ	68
version 4.30 で修正されたバグ	69
管理ツール	70
アプリケーションの起動	70
クライアントと Webtop	71
エミュレーション	72
インストールとアップグレード	73
国際化とローカリゼーション	73
その他	74
印刷	75
セキュリティー	75
サーバー	76
ユーザー認証	76
Web サービス	77
Version 4.40 でのドキュメントの問題	77
「割り当て済みのユーザープロファイル」タブの変更	77
Tomcat リソースファイルの場所の変更	78
アイドル状態のユーザーセッションの自動タイムアウト	78
「ウィンドウタイプ」(--displayusing) のコマンドオプション	78
セカンダリサーバーからオブジェクトの作成と変更を行う際のエラー	79
パスワードキャッシュのエントリの作成	79
「SGD サーバーへの SOAP 接続の保護」ページに対する訂正	81

はじめに

『Sun Secure Global Desktop 4.4 リリースノート』では、このバージョンの Sun Secure Global Desktop (SGD) ソフトウェアのシステム要件、サポート、新機能、および変更点について説明します。このマニュアルはシステム管理者向けに記述されています。

システムコマンドの使用法

このマニュアルには、システムのシャットダウン、システムのブート、デバイスの設定といった基本的な UNIX® システムのコマンドや手順に関する情報は記載されていない場合があります。このような情報については、使用しているシステムのマニュアルを参照してください。ただし、それぞれの SGD コマンドに関する情報はこのマニュアルに記載されています。

シェルプロンプト

シェル	プロンプト
C シェル	<i>machine-name%</i>
C シェルスーパーユーザー	<i>machine-name#</i>
Bourne シェルおよび Korn シェル	\$
Bourne シェルおよび Korn シェルスーパーユーザー	#

表記上の規則

字体*	意味	使用例
AaBbCc123	コマンド名、ファイル名、およびディレクトリ名を示します。または、画面上のコンピュータ出力を示します。	.login ファイルを編集します。 ls -a を使用してすべてのファイルを表示します。 % You have mail.
AaBbCc123	ユーザーが入力する文字を、画面上のコンピュータ出力とは区別して示します。	% su Password:
<i>AaBbCc123</i>	コマンド行の変数を示します。実際に使用する特定の名前または値で置き換えます。	ファイルを削除するには、 rm <i>filename</i> と入力します。

* 使用しているブラウザの設定がこれらの設定と異なっている場合もあります。

関連マニュアル

オンラインと示されているマニュアルは、
<http://docs.sun.com/app/docs/coll/1708.2> で参照できます。

アプリケーション	タイトル	Part Number	形式	ロケーション
インストール	Sun Secure Global Desktop 4.4 インストールガイド	820-2816-10	HTML PDF	オンライン ソフトウェア CD およ びオンライン
管理	Sun Secure Global Desktop 4.4 管理者ガイド	820-2820-10	HTML	オンライン
参照	Sun Secure Global Desktop 4.4 リファレンスマニュアル	820-2821-10	HTML PDF	オンライン オンライン
ユーザー	Sun Secure Global Desktop 4.4 ユーザーガイド	820-2823-10	HTML	オンライン

コメントの送付先

Sun では、マニュアルの品質向上のために、お客様からのコメントや提案をお待ちしております。Sun へのコメントは、
<http://docs.sun.com/app/docs/form/comments> から電子メールでお送りください。

電子メールの件名には、マニュアルタイトルと Part Number (Sun Secure Global Desktop 4.4 リリースノート、Part Number 820-2811-10) を含めるようにしてください。

第1章

システム要件とサポート

この章では、SGD version 4.40 をインストールして使用するためのシステム要件について説明します。

この章の内容は次のとおりです。

- 2 ページの「ハードウェアの要件」
- 3 ページの「オペレーティングシステムの要件」
- 5 ページの「Web サーバーの要件」
- 5 ページの「ネットワークの要件」
- 6 ページの「クライアントの要件」
- 8 ページの「SGD 拡張モジュールの要件」
- 10 ページの「サポートされるアプリケーションタイプ」
- 10 ページの「サポートされるプロトコル」
- 11 ページの「セキュリティーサポート」
- 12 ページの「プロキシサーバーのサポート」
- 13 ページの「サポートされる認証方式」
- 14 ページの「印刷サポート」
- 14 ページの「スマートカードのサポート」

ハードウェアの要件

次に示すハードウェアの要件は、正確なサイズ決定ツールとしてではなく、指針として使用してください。ハードウェア要件に関する詳細な支援については、SGD sales office (<http://jp.sun.com/secure/contact/>) にご連絡ください。

SGD のホストサーバーの要件は、次の項目の合計に基づいて計算できます。

- SGD のインストールと実行に必要となる量
- SGD にログインしてアプリケーションを実行するユーザーごとに必要となる量

SGD をインストールして実行するための要件は次のとおりです。

- 256M バイトの空きディスク容量。インストール時にはさらに 300M バイト
- 256M バイトのランダムアクセスメモリー (RAM)
- 1GHz のプロセッサ
- ネットワークインタフェースカード (NIC)

これには、オペレーティングシステム自体に必要なものは含まれていません。また、サーバーが SGD だけに使用されることを前提にしています。

SGD にログインしてアプリケーションを実行するユーザーをサポートするための要件は次のとおりです。

- ユーザーごとに 20M バイト以上
- SPARC® テクノロジプラットフォーム (SPARC プラットフォーム) の場合は、ユーザーごとに 15MHz
- x86 プラットフォームの場合は、ユーザーごとに 20MHz



注意 – 実際の CPU (中央演算処理装置) およびメモリー要件は、使用するアプリケーションによって大幅に変わります。

オペレーティングシステムの要件

次の表に、SGD でサポートされるインストールプラットフォームを示します。

オペレーティングシステム	サポートされるバージョン
SPARC プラットフォーム上の SolarisTM Operating System (Solaris OS)	8、9、10、10 Trusted Extensions
x86 プラットフォーム上の Solaris OS	10、10 Trusted Extensions
Red Hat Enterprise Linux (Intel x86 32 ビット)	4、5
Fedora Linux (Intel x86 32 ビット)	7
SUSE Linux Enterprise Server (Intel x86 32 ビット)	9、10

オペレーティングシステムの変更

オペレーティングシステムの変更がいくつか必要になる場合があります。これらの変更を行わないと、SGD が適切にインストールされない場合や正しく動作しない場合があります。

Linux プラットフォームにインストールする際のローカライズされたメッセージ

SGD を Linux プラットフォームにインストールする際に、サポートされている言語にローカライズされたメッセージを表示できるのは、gettext パッケージがインストールされている場合のみです。gettext パッケージがインストールされていない場合、インストール中に英語が使用されます。

Fedora 7

サーバーで libXp.so.6 ライブラリが使用可能になっていない場合、SGD のインストールに失敗します。このライブラリは、Fedora Core 3 以降は推奨されなくなりました。ただし、ファイルは引き続き libXp パッケージで提供されています。

5250 および 3270 アプリケーション

libXm.so.3 ライブラリは、5250 アプリケーションと 3270 アプリケーションをサポートするために必要です。このライブラリは OpenMotif 2.2 パッケージで提供されています。

SUSE Linux Enterprise Server 9 With Service Pack 2

サーバーで libgdbm.so.2 ライブラリが使用可能になっていない場合、SGD のインストールに失敗します。SUSE Linux Enterprise Server 9 with Service Pack 2 には、このライブラリの version 3 がデフォルトで含まれています。SGD をインストールする前に、このライブラリの version 2 を入手してインストールしてください。

SUSE Linux Enterprise Server 10

サーバーで libgdbm.so.2 および libexpat.so.0 ライブラリが使用可能になっていない場合、SGD のインストールに失敗します。SUSE Linux Enterprise Server 10 には、これらのライブラリの version 3 および version 1 がデフォルトで含まれます。SGD をインストールする前に、これらのライブラリの必要なバージョンを入手してインストールしてください。

Solaris 8、9、および 10 OS

SGD に必要なライブラリを入手するには、エンドユーザー Solaris OS ディストリビューション以上のディストリビューションをインストールする必要があります。それ以外の場合、SGD はインストールされません。

サーバーで /usr/lib/libsendfile.so ライブラリが使用可能になっていない場合、SGD のインストールに失敗します。このライブラリは、Solaris コアライブラリ (SUNWcsl) パッケージに含まれている場合があります。含まれていない場合は、パッチ番号 111297 を適用して入手する必要があります。

Solaris 8 OS /dev/random 仮想デバイス

サーバーに /dev/random 仮想デバイスが存在しない場合、Solaris 8 OS プラットフォーム上の SGD にログインできないことがあります。このデバイスを取得するには、パッチ番号 112438 をインストールする必要があります。

Web サーバーの要件

Web サーバーは、SGD インストールが正常動作するために不可欠な要素です。SGD をインストールする際に、SGD Web サーバーをインストールします。SGD Web サーバーは、SGD で使用できるようにあらかじめ設定された Apache Web サーバーです。SGD Web サーバーは、次の表に示すコンポーネントで構成されます。

コンポーネント	バージョン
Apache HTTP サーバー	1.3.36
mod_ssl	2.8.27
OpenSSL	0.9.8d
mod_jk	1.2.15
Apache Jakarta Tomcat	5.0.28
Apache Axis	1.2

SGD でユーザー独自の Web サーバーを使用できます。方法については、『Sun Secure Global Desktop 4.4 管理者ガイド』を参照してください。

ネットワークの要件

SGD で使用するネットワークは、次のように設定する必要があります。主な要件には次のようなものがあります。

- SGD サーバーのドメインネームシステム (DNS) エントリは、すべてのクライアントで解決可能であることが必要です。
- SGD サーバーの DNS 検索と逆検索が常に成功する必要があります。
- すべてのクライアントデバイスが DNS を使用する必要があります。
- クライアントデバイスから SGD に、次の TCP ポートで TCP/IP (Transmission Control Protocol/Internet Protocol) 接続を確立する必要があります。
 - **80** - クライアントデバイスと SGD Web サーバーの間の HTTP (Hypertext Transfer Protocol) 接続に使用されます。ポート番号は、インストール時に選択されたポートによって変わります。
 - **443** - クライアントデバイスと SGD Web サーバーの間の HTTPS (Hypertext Transfer Protocol over Secure Sockets Layer) 接続に使用されます。

- **3144** - クライアントデバイスと SGD の間の標準 (暗号化されない) 接続に使用されます。
- **5307** - クライアントデバイスと SGD の間のセキュア接続に使用されます。セキュア接続では SSL (Secure Sockets Layer) が使用されます。

注 - クライアントデバイスと SGD の間の初期接続は、常にセキュリティー保護されます。ユーザーが SGD にログインしたあと、接続は標準接続にダウングレードされます。SGD の初回インストール時には、SGD に接続するために TCP ポート 3144 および 5307 を開いておく必要があります。常にセキュア接続を使用するよう SGD を設定することもできます。

- アプリケーションを実行するには、SGD はアプリケーションサーバーに対して TCP/IP 接続を確立できる必要があります。アプリケーションの種類によって、開く必要のある TCP ポートが決まります。次に例を示します。
 - **22** - SSH (Secure Shell) を使う X アプリケーションと文字型アプリケーション用です
 - **23** - Telnet を使う Windows アプリケーション、X アプリケーション、および文字型アプリケーション用です
 - **3389** - Windows ターミナルサービスを使う Windows アプリケーション用です
 - **6010** 以上 - X アプリケーション用です

SGD で使用されるすべてのポートについて、およびファイアウォールと一緒に SGD を使用方法については、『Sun Secure Global Desktop 4.4 管理者ガイド』を参照してください。

クライアントの要件

`http://server.example.com/sgd` で Webtop を使用するには、SGD Client と、サポートされている Web ブラウザが必要です。ここで、`server.example.com` は、SGD サーバーの名前です。

SGD Client は 2 つのモードで動作できます。

- **Webtop** モード。SGD Client は、Webtop と呼ばれる特殊な Web ページを使用して、SGD のコントロールを表示します。これはデフォルトのモードです。
- **統合モード**。SGD Client は、デスクトップの「スタート」メニューまたは「起動」メニューに、SGD のコントロールを表示します。ほかの設定項目によっては、初期認証とプロキシサーバー設定の検出のためだけに Web ブラウザが必要になることがあります。

次の表に、サポートされるクライアントプラットフォーム、サポートされる Web ブラウザ、および SGD Client が統合モードで動作している場合にサポートされるデスクトップメニューシステムの一覧を示します。

サポートされるクライアントプラットフォーム	サポートされる Web ブラウザ	統合モードのサポート
Microsoft Windows Vista	Internet Explorer 7.0 以降 Mozilla 1.5 以降 Mozilla Firefox 2.0 以降	Microsoft Windows の「スタート」メニュー
Microsoft Windows XP Professional	Internet Explorer 6.0 以降、7.0 以降 Mozilla 1.5 以降 Mozilla Firefox 2.0 以降	Microsoft Windows の「スタート」メニュー
Microsoft Windows 2000 Professional	Internet Explorer 6.0 以降、7.0 以降 Mozilla 1.5 以降 Mozilla Firefox 2.0 以降	Microsoft Windows の「スタート」メニュー
SPARC プラットフォーム上の Solaris 8 OS 以降	Mozilla 1.5 以降 Mozilla Firefox 2.0 以降	Sun Java Desktop System の「起動」メニュー
SPARC プラットフォーム上の Solaris 10 OS Trusted Extensions	Mozilla 1.5 以降 Mozilla Firefox 2.0 以降	サポートされていません
x86 プラットフォーム上の Solaris 10 OS	Mozilla 1.5 以降 Mozilla Firefox 2.0 以降	Sun Java Desktop System の「起動」メニュー
Mac OS X 10.4 以降	Safari 2.0 以降 Mozilla Firefox 2.0 以降	サポートされていません
Fedora Linux 7 (Intel x86 32 ビット)	Mozilla 1.5 以降 Mozilla Firefox 2.0 以降	GNOME または KDE の「スタート」メニュー
Red Hat Desktop version 4	Mozilla 1.5 以降 Mozilla Firefox 2.0 以降	GNOME または KDE の「スタート」メニュー
SUSE Linux Enterprise Desktop 10	Mozilla 1.5 以降 Mozilla Firefox 2.0 以降	GNOME または KDE の「スタート」メニュー
Ubuntu 7.04	Mozilla 1.5 以降 Mozilla Firefox 2.0 以降	GNOME の「スタート」メニュー

ベータ版やプレビュー版の Web ブラウザはサポートされません。

Web ブラウザで JavaScript™ プログラミング言語が有効になっている必要があります。

次の機能をサポートするには、Web ブラウザで Java テクノロジーを有効にする必要があります。

- SGD Client を自動的にダウンロードしてインストールする

- ユーザーのデフォルト Web ブラウザからプロキシサーバーの設定を調べる

Java テクノロジーを利用できない場合でも、SGD Client を手動でダウンロードしてインストールできます。

サポートされる Java テクノロジー用プラグインは次のとおりです。

- Sun Java Plug-in tool version 1.6.0
- Sun Java Plug-in tool version 1.5.0

注 – Microsoft Windows Vista プラットフォームでは、Sun Java Plug-in ツール version 1.6.0 だけがサポートされます。

ユーザーが同一のクライアントデバイスと Web ブラウザを使って複数のユーザーセッションを起動した場合、新しいセッションが既存のセッションを終了させるのではなく、それらのユーザーセッションは結合されます。この方法でユーザーセッションを結合するには、永続的な Cookie を許可するようにブラウザが設定されている必要があります。永続的な Cookie が許可されていない場合、ユーザーセッションは常に終了し、アプリケーションウィンドウが閉じることもあります。

適切に表示するには、クライアントデバイスを少なくとも 256 色に設定する必要があります。

シリアルポートマッピングは、UNIX、Linux、および Microsoft Windows プラットフォームでのみサポートされます。

SGD 拡張モジュールの要件

SGD 拡張モジュールは、アプリケーションサーバーにインストールできるソフトウェアコンポーネントであり、SGD に次の追加機能を提供します。

- 高度な負荷分散
- クライアントドライブマッピング (CDM)
- シームレスウィンドウ (Windows プラットフォームのみ)
- オーディオ (UNIX または Linux プラットフォームのみ)

SGD 拡張モジュールでサポートされるインストールプラットフォームは次のとおりです。

オペレーティングシステム	サポートされるバージョン
Microsoft Windows	Windows Server 2003 Windows 2000 Server Microsoft Windows XP Professional* Microsoft Windows Vista Ultimate* Microsoft Windows Vista Business*
SPARC プラットフォーム上の Solaris OS	8、9、10、10 Trusted Extensions [†]
x86 プラットフォーム上の Solaris OS	10、10 Trusted Extensions [†]
Red Hat Enterprise Linux (Intel x86 32 ビット)	4、5
Fedora Linux (Intel x86 32 ビット)	7
SUSE Linux Enterprise Server (Intel x86 32 ビット)	9、10

* Microsoft Windows XP Professional および Microsoft Windows Vista プラットフォームでは、CDM だけがサポートされます。シームレスウィンドウおよび高度な負荷分散はサポートされません。完全な Windows デスクトップセッションだけがサポートされ、アプリケーションはサポートされません。

† Solaris 10 OS Trusted Extensions プラットフォームでは、オーディオと CDM はサポートされません。

アプリケーションサーバーが SGD 拡張モジュールでサポートされないプラットフォームの場合でも、SGD ではそれらを使用することができ、サポートされるプロトコルのいずれかを使用してサポートされるアプリケーションタイプにアクセスできます。

サポートされるアプリケーションタイプ

SGD を使用して、次に示す種類のアプリケーションにアクセスできます。

- Microsoft Windows
- Solaris OS、Linux、HP-UX、および AIX で稼働している文字型アプリケーション
- Solaris OS、Linux、HP-UX、および AIX で稼働している X アプリケーション
- IBM メインフレームおよび AS/400
- Web アプリケーション (HTML と Java テクノロジを使用)

サポートされるプロトコル

SGD では、次のプロトコルがサポートされます。

- Microsoft リモートデスクトッププロトコル (RDP) version 5.2
- X11
- HTTP
- HTTPS
- SSH version 2 以降
- Citrix Independent Computing Architecture (ICA)
- Telnet VT、American National Standards Institute (ANSI)
- TN3270E
- TN5250

セキュリティーサポート

SGD では、次のプロトコルを使用したクライアントからのセキュア接続がサポートされています。

- SSL version 3.0
- Transport Layer Security (TLS) version 1.0

次の暗号化方式群がサポートされています。

- RSA_WITH_AES_256_CBC_SHA
- RSA_WITH_AES_128_CBC_SHA
- RSA_WITH_3DES_EDE_CBC_SHA
- RSA_WITH_RC4_128_SHA
- RSA_WITH_RC4_128_MD5
- RSA_WITH_DES_CBC_SHA

SGD は、次のいずれかの認証局 (CA) 証明書 (ルート証明書) で署名されている Base 64 エンコードの PEM 形式 X.509 証明書をサポートします。

- Baltimore CyberTrust Code Signing Root
- Baltimore CyberTrust Root
- Entrust.net CA
- Entrust.net Client CA 1
- Entrust.net Client CA 2
- Entrust.net Server CA 1
- Entrust.net Server CA 2
- Equifax Secure CA
- Equifax Secure eBusiness CA 1
- Equifax Secure eBusiness CA 2
- Equifax Secure Global eBusiness CA
- GeoTrust Global CA
- The Go Daddy Group, Inc. Class 2 CA
- GTE CyberTrust Root
- GTE CyberTrust Global Root
- GTE CyberTrust Root 5
- Starfield Technologies, Inc. Class 2 CA
- Thawte Personal Basic CA

- Thawte Personal Freemail CA
- Thawte Personal Premium CA
- Thawte Premium CA
- Thawte Server CA
- <http://www.valicert.com>
- VeriSign Class 1 Public Primary CA - G1
- VeriSign Class 1 Public Primary CA - G2
- VeriSign Class 1 Public Primary CA - G3
- VeriSign Class 2 Public Primary CA - G1
- VeriSign Class 2 Public Primary CA - G2
- VeriSign Class 2 Public Primary CA - G3
- VeriSign Class 3 Public Primary CA - G1
- VeriSign Class 3 Public Primary CA - G2
- VeriSign Class 3 Public Primary CA - G3
- VeriSign Class 4 Public Primary CA - G2
- VeriSign Class 4 Public Primary CA - G3
- VeriSign/RSA Secure Server

CA による CA 自体の証明書 (ルート証明書) をインストールすることにより、サポートする証明書のタイプを追加できます。

プロキシサーバーのサポート

SGD でプロキシサーバーを使用するには、プロキシサーバーがトンネリングをサポートしている必要があります。

Webtop の場合は、HTTP、Secure (SSL)、または SOCKS v5 プロキシサーバーを使用できます。

SOCKS v5 プロキシサーバーの場合、「基本」および「無認証要求」認証方式が SGD でサポートされます。

サポートされる認証方式

SGD にアクセスするユーザーを認証するために、次の機構がサポートされています。

- Lightweight Directory Access Protocol (LDAP) version 3
- Microsoft Active Directory
- ネットワーク情報サービス (NIS)
- Microsoft Windows ドメイン
- RSA SecurID
- Web サーバー認証 (HTTP/HTTPS 基本認証)。公開鍵インフラストラクチャー (PKI) クライアント証明書も含む

SecurID 認証

SGD は、version 4、5、および 6 の RSA Authentication Manager (従来の RSA ACE/Server) で動作します。

サポートされる LDAP ディレクトリサーバー

SGD では、version 3 の標準 LDAP プロトコルがサポートされます。LDAP version 3 に準拠する任意のディレクトリサーバーで、LDAP 認証と、サードパーティー認証のための LDAP 検索方法を使用できます。SGD は、次のディレクトリサーバーでこの機能をサポートしています。

- Sun Java System Directory Server version 4.1 以降 (以前の Sun ONE、Netscape™ ソフトウェア、または iPlanet Directory Server)
- Microsoft Active Directory

その他のディレクトリサーバーでも機能する可能性がありますが、サポートされていません。

Active Directory 認証は、Microsoft Active Directory サーバーでのみサポートされています。

Directory Services Integration (Webtop 生成とも呼ばれる) 機能は、次のディレクトリサーバーでサポートされます。

- Sun Java System Directory Server version 4.1 以降 (以前の Sun ONE、Netscape ソフトウェア、または iPlanet Directory Server)
- Microsoft Active Directory

その他のディレクトリサーバーでも機能する可能性があります、サポートされていません。

印刷サポート

SGD では、ユーザーのクライアントデバイスに接続されている PostScript、PCL (Printer Command Language)、およびテキスト専用プリンタへの印刷がサポートされています。

SGD の `tta_print_converter` スクリプトは、クライアントプリンタに合わせて印刷ジョブを正しくフォーマットするために必要な変換をすべて実行します。Postscript から PCL に変換するには、SGD サーバーに Ghostscript がインストールされている必要があります。

SGD PDF (Portable Document Format) 印刷をサポートするには、Ghostscript Version 6.52 以降が SGD サーバーにインストールされている必要があります。Ghostscript ディストリビューションに、`ps2pdf` プログラムが含まれている必要があります。Microsoft Windows クライアントデバイスでは、Adobe Reader Version 4.0 以降がインストールされている必要があります。

SGD では、Common Unix Printing System (CUPS) による印刷がサポートされています。SGD サーバーに CUPS version 1.1.19 以降がインストールされている必要があります。追加の設定作業が必要になります。

Microsoft RDP プロトコルを使用する Windows アプリケーションから印刷を行う場合、SGD では Microsoft Windows アプリケーションサーバーでサポートされるプリンタがサポートされます。

スマートカードのサポート

SGD では、Windows Server 2003 アプリケーションサーバー上で動作するアプリケーションから、クライアントデバイスに取り付けられたスマートカードリーダーにアクセスできます。ユーザーは次の操作を行うことができます。

- スマートカードを使用して Windows Server 2003 サーバーにログオンする。
- Windows 2003 Server 上で動作するアプリケーションを使用しながら、スマートカード上のデータにアクセスする。たとえば、証明書を使用して電子メールの署名や暗号化を行う。

SGD は、PCSC (Personal Computer Smart Card) 準拠のスマートカードおよびリーダーに対応しています。

Windows Server 2003 アプリケーションサーバーへのログオンには、次の表のスマートカードを使用できることがテストで実証されています。

クライアントのオペレーティングシステムおよびライブラリ	スマートカード
Microsoft Windows XP Vista	ActivCard 64K CryptoFlex 32K GemPlus GPK16000
Microsoft Windows XP Professional	ActivCard 64K CryptoFlex 32K GemPlus GPK16000
Microsoft Windows 2000 Professional	ActivCard 64K CryptoFlex 32K GemPlus GPK16000
Solaris OS (ただし、Sun Ray TM シンクライアント PCSC Bypass パッケージ (SUNWsrcbp) がインストール済みであること)	ActivCard 64K CryptoFlex 32K
Fedora Linux (ただし、pcsc-lite 1.2.0 がインストール済みであること)	ActivCard 64K CryptoFlex 32K GemPlus GPK16000

第2章

新機能および変更点

この章では、SGD version 4.40、4.31、および 4.30 の新機能および変更点について説明します。

この章の内容は次のとおりです。

- 17 ページの「version 4.40 の新機能」
- 24 ページの「version 4.31 の新機能」
- 25 ページの「version 4.30 の新機能」
- 36 ページの「version 4.40 での変更点」
- 46 ページの「version 4.31 での変更点」
- 48 ページの「version 4.30 での変更点」

version 4.40 の新機能

ここでは、Sun Secure Global Desktop 4.40 リリースの新機能について説明します。

SGD Administration Console

SGD の管理ツールである Object Manager、Array Manager、Configuration Wizard、および Session Manager は、SGD Administration Console に置き換えられました。SGD Administration Console は Web アプリケーションです。SGD 管理者は Administration Console を使って SGD を設定できます。

Administration Console は、SGD でサポートされている言語、つまり英語、フランス語、日本語、韓国語、簡体字中国語、および繁体字中国語にローカライズされます。

Administration Console を使用するには、ブラウザで JavaScript が有効になっている必要があります。

可能な場合は、SGD アレイ内のプライマリサーバーで Administration Console を実行してください。新規オブジェクトの作成やオブジェクトの属性の編集といった一部の操作は、プライマリサーバーで行うことが最適です。プライマリサーバーが稼働していない場合にこれらの操作をセカンダリサーバーで実行すると、変更が適用されません。

注 – SGD のディストリビューションには、Administration Console の Web アーカイブ (WAR) ファイル `sgdadmin.war` が含まれています。このファイルを使って Administration Console を別の Web アプリケーションサーバーに配備することはできません。

Administration Console は、次のいずれかの方法で起動できます。

- SGD 管理者の Webtop にある Administration Console のリンクをクリックします。
- `http://server.example.com` の SGD Web サーバーの開始画面で、「Sun Secure Global Desktop Administration Console の起動」リンクをクリックします。ここで、`server.example.com` は SGD サーバーの名前です。
- `http://server.example.com/sgdadmin` にアクセスします。ここで、`server.example.com` は SGD サーバーの名前です。

Administration Console の詳細については、『Sun Secure Global Desktop 4.4 管理者ガイド』および『Sun Secure Global Desktop 4.4 リファレンスマニュアル』を参照してください。

用語の変更

Administration Console では、以前の SGD のリリースとは異なる用語が使用されています。

次の表に、version 4.31 で使用されているいくつかの一般的な用語と、Administration Console で使用されている対応する用語を示します。

SGD Version 4.31	Administration Console
アレイメンバー	SGD サーバー
ブラウザベース Webtop	Webtop
エミュレータセッション	アプリケーションセッション
ENS (Enterprise Naming Scheme)	ローカルリポジトリ
ENS 等価名	ユーザープロファイル

SGD Version 4.31	Administration Console
完全修飾名	ユーザーの識別情報
ホスト	アプリケーションサーバー
インテリジェントアレイルーティング	負荷分散グループ
ログイン認証機能	システム認証
ログインプロファイル	ユーザープロファイル
人物オブジェクト	ユーザープロファイルオブジェクト
TFN (Tarantella Federated Naming)	使用されない
Webtop セッション	ユーザーセッション

属性名の変更

Administration Console では、一部の属性の名前が変更されました。『Sun Secure Global Desktop 4.4 リファレンスマニュアル』には、Administration Console で使用される属性名が、Object Manager および Array Manager で使用されていた以前の属性名とともに記載されています。

デスクトップ直接 URL

デスクトップ直接 URL (Uniform Resource Locator) を使用すると、ユーザーは Webtop を表示せずにログインして全画面デスクトップを表示できます。

デスクトップ直接 URL を使用するには、My Desktop (cn=My Desktop) と呼ばれるアプリケーションオブジェクトがユーザーに割り当てられている必要があります。このオブジェクトは、SGD のインストール時に自動的に作成されます。デフォルトでは、このオブジェクトは、SGD サーバー上で使用可能なデフォルトのデスクトップアプリケーション (Sun Java Desktop System など) を実行するように設定されています。このオブジェクトは、任意のアプリケーションを実行するように再設定できますが、全画面デスクトップアプリケーションで最適に動作します。ユーザーが別のデスクトップアプリケーションを必要としている場合は、必要に応じて追加の My Desktop オブジェクトを作成することができます。ただし、ユーザーに割り当てる My Desktop アプリケーションは 1 つだけにしてください。

注 - ユーザーには任意の数のアプリケーションを割り当てることができますが、デスクトップ直接 URL からアクセスできるのは My Desktop アプリケーションだけです。

デスクトップ直接 URL は、`http://server.example.com/sgd/mydesktop` です。ここで、`server.example.com` は SGD サーバーの名前です。この URL を開くと、SGD のログインページが表示されます。ユーザーがログインすると、デスクトップセッションが表示されます。Web ブラウザは閉じてかまいません。

注 – デスクトップアプリケーションを中断または再開することはできません。ユーザーはデスクトップアプリケーションから通常どおりにログアウトする必要があります。

ローミングプロファイルのサポート

Microsoft Windows クライアントデバイスを使用するユーザーは、ローミングユーザープロファイルを持つことができます。ローミングユーザープロファイルにより、ユーザーがどの Microsoft Windows コンピュータを使用する場合でも、同じ環境が提供されます。Microsoft Windows ユーザーがローミングユーザープロファイルを所有している場合、この環境を実現するために、次のように SGD クライアントプロファイルが自動的に調整されます。

- プロキシサーバー設定などの、ユーザーのクライアントデバイス固有の設定がクライアントデバイス上に格納されます。

デフォルトでは、これは

`homedrive¥Documents and Settings¥username¥Local Settings¥Application Data¥Sun¥SSGD¥profile.xml` です。

言語設定などのユーザー固有の設定がローミングユーザープロファイルの場所に格納されます。

- 通常、これは `homedrive¥Documents and Settings¥username¥Application Data¥Sun¥SSGD¥profile.xml` です。

注 – この場所には、ユーザーの `hostsvisited` ファイルと `certstore.pem` ファイルも含まれています。

SGD クライアントプロファイルの次の設定が、ユーザーのローミングプロファイルの場所に格納されます。

クライアントプロファイルの設定	ローミングプロファイルのエントリ
ログイン URL	<url>
「スタート」メニューへのアプリケーションの追加	<mode>
自動クライアントログイン	<autologin> <AT>
システムログイン時に接続	<autostart>
接続障害	<reconnect mode> <reconnect_attempts> <reconnect_interval>

アイドル状態のユーザーセッションの自動タイムアウト

SGD 管理者は、アイドル状態のユーザーセッションの自動タイムアウトを設定できるようになりました。

タイムアウトを設定すると、アプリケーションセッションや Webtop のアクティビティーのない状態が一定期間続いた場合に、ユーザーセッションを中断することができます。タイムアウトは、アレイ内のすべての SGD サーバーに適用されます。

このタイムアウトは、コマンド行からのみ設定できます。Administration Console を使ってタイムアウト値を編集することはできません。

タイムアウトは次のコマンドで設定します。

```
$tarantella config edit \  
--tarantella-config-array-webtopsessionidletimeout secs
```

ここで、secs はタイムアウト値 (単位は秒) です。

0 に設定すると、アイドル状態のユーザーセッションのタイムアウト機能はオフになります。これは、デフォルト設定です。

次の例では、アクティビティーのない状態が 1800 秒 (30 分) 続くとユーザーセッションは中断されます。

```
$tarantella config edit \  
--tarantella-config-array-webtopsessionidletimeout 1800
```

ネットワークアドレスを指定するためのネットマスクフィルタ

次の属性を設定する際に、ネットマスクフィルタを指定できるようになりました。

- 外部 DNS 名 (--server-dns-external)
- アレイルート (--tarantella-config-array-netservice-proxy-routes)

ネットマスクフィルタの形式は `v.w.x.y/z` です。以前の「ワイルドカード」タイプのフィルタも引き続きサポートされています。

次の例では、ネットマスクフィルタを使って外部 DNS 名を指定します。

```
$ tarantella config edit --server-dns-external \  
  "192.168.55.0/24:boston.indigo-insurance.com"
```

ウィンドウ管理キー

次のオブジェクトタイプのために、新しい「ウィンドウ管理キー」(--remotewindowkeys) 属性を使用できます。

- Windows アプリケーション
- X アプリケーション

この属性を使用すると、ウィンドウ管理を処理するキーボードショートカットを、リモートセッションに送信することも、ローカルで実行することもできます。この設定が有効なのは、「ウィンドウタイプ」が「キオスク」モードに設定されているアプリケーションだけです。

この属性が有効になっているときに「キオスク」モードを終了するには、キーシーケンス `Alt + Ctrl + Shift + スペース` を使用します。これにより、ローカルデスクトップ上でキオスクセッションがアイコン化されます。

Solaris 10 OS Trusted Extensions のサポート

SGD は Solaris 10 OS Trusted Extensions 上で動作しますが、次の制限事項があります。

- SGD はラベル付きゾーンにインストールする必要があります。SGD を Solaris 10 OS Trusted Extensions にインストールする方法の詳細については、『Sun Secure Global Desktop 4.4 インストールガイド』を参照してください。
- UNIX プラットフォームのクライアントデバイスでは、クライアントドライブマッピングはサポートされません [6610354]。

- UNIX プラットフォームのアプリケーションでは、オーディオはサポートされません [6610352]。
- Solaris 10 OS Trusted Extensions クライアントプラットフォームでは、統合モードはサポートされません [6610371]。
- Solaris 10 OS Trusted Extensions クライアントプラットフォームでは、アプリケーションのキオスクモード表示で最適なユーザー操作性が得られません [6594795]。

パスワードとトークンのグローバル管理

Administration Console を使用すると、SGD のすべてのユーザーに関してパスワードとトークンをグローバルに管理できます。

パスワードとトークンをユーザー識別情報またはユーザープロファイルによって管理できるようになりました。以前の **Object Manager** 管理ツールでは、ユーザープロファイルによるパスワードとトークンの管理だけがサポートされていました。

サーバー証明書のサブジェクト代替名

SGD サーバーに複数の DNS 名がある場合 (ファイアウォールの内側と外側で異なる名前を使って認識されている場合など)、証明書発行要求 (CSR) を生成するときに、「サブジェクト代替名」として追加の DNS 名を指定できます。これにより、複数の DNS 名をサーバー証明書に関連付けることができます。

`tarantella security certrequest` コマンドで CSR を生成する際に、サブジェクト代替名の入力を求めるプロンプトが表示されるようになりました。

証明書のサブジェクト代替名は、`tarantella security certinfo` コマンドを使って表示できます。

「タイムゾーンマップファイル」属性

新しい「タイムゾーンマップファイル」属性 (`--xpe-tzmapfile`) が使用可能になりました。

この属性を使用すると、UNIX クライアントデバイスと Windows アプリケーションサーバーのタイムゾーン名との間のマッピングを含むファイルを指定できます。属性は、アレイ内のすべての SGD サーバーに適用されます。

version 4.31 の新機能

ここでは、Sun Secure Global Desktop Software 4.31 リリースの新機能について説明します。

X アプリケーションでのオーディオサポート

SGD 管理者は、SGD を使ってアクセスする X アプリケーションのサウンドを有効にできるようになりました。

X アプリケーションでサウンドを聞くには、次の条件を満たす必要があります。

- クライアントデバイスでサウンドを再生する必要があります。
- SGD に接続するときに SGD Client を使用する必要があります。
- SGD 拡張モジュールの UNIX オーディオモジュールがアプリケーションサーバーにインストールされ、稼働している必要があります。
- X アプリケーションからサウンドを出力するときに、Open Sound System (OSS) を使用する必要があります。システムが Advanced Linux Sound Architecture (ALSA) を使用している場合、カーネル内で ALSA OSS エミュレーションモジュールを有効にすることが必要な場合があります。
- Administration Console で SGD UNIX オーディオサービスが有効になっている必要があります。デフォルトでは、このサービスは無効になっています。

UNIX オーディオモジュールには OSS オーディオドライバエミュレータが含まれます。オーディオドライバエミュレータは、SGD 拡張モジュールの UNIX オーディオモジュールをインストールするときに、カーネルにインストールされます。

注 - オーディオモジュールにはオーディオドライバエミュレータが含まれるため、アプリケーションサーバー自体にサウンドカードは不要です。

一部の X アプリケーションは、オーディオ出力に `/dev/audio` または `/dev/dsp` デバイスを使用するようにハードコードされています。X アプリケーションオブジェクトの新しい属性「オーディオリダイレクトライブラリ」(`--unixaudiopreload`) によって SGD オーディオライブラリが有効になり、X アプリケーションで強制的に SGD オーディオデバイスが使用されるようになります。

Microsoft Windows Vista でのリモートデスクトップのサポート

Microsoft Windows Vista のリモートデスクトップ機能では、リモートデスクトッププロトコルを使ってコンピュータにアクセスすることができます。たとえば、SGD とリモートデスクトップを使って、オフィスの外部のユーザーにオフィスの PC へのアクセスを許可できるようになりました。完全な Windows デスクトップセッションだけがサポートされます。

SGD 拡張モジュールを Microsoft Windows Vista クライアントデバイスにインストールして、クライアントドライブマッピングをサポートすることも可能です。高度な負荷分散およびシームレスウィンドウはサポートされません。

SSH クライアントの設定

次のオブジェクトタイプのために、新しい「SSH Arguments」(--ssharguments) 属性を使用できます。

- X アプリケーション
- 文字型アプリケーション
- 3270 アプリケーション
- 5250 アプリケーション

この属性を使用すると、アプリケーションの接続方法が SSH の場合に、SSH クライアントのコマンド行引数を指定できます。

version 4.30 の新機能

ここでは、Sun Secure Global Desktop Software 4.30 リリースの新機能について説明します。

デスクトップの「スタート」メニューまたは「起動」メニューとの統合

SGD Client は、次のいずれかのモードで動作できるようになりました。

- **Webtop** モード - Web ブラウザを使用して、以前のリリースと同じ方法で Webtop を表示します。これはデフォルトのモードです。

- 統合モード - Webtop コンテンツ (アプリケーションを起動するためのリンク) がデスクトップの「スタート」メニューまたは「起動」メニューに表示されるため、ユーザーはローカルアプリケーションと同じ方法でリモートアプリケーションを実行できます。「スタート」メニューまたは「起動」メニューとの統合の設定によっては、Web ブラウザを使用する必要がない場合もあります。

注 - クライアントデバイス上で Java テクノロジを使用しない組織の場合は、統合モードを使用してください。

統合モードを利用するには、デスクトップの「スタート」メニューまたは「起動」メニューの「ログイン」リンクを使って SGD にログインする必要があります。Web ブラウザを起動してログインした場合、統合モードは使用できません。

統合モードで操作すると、セッション管理が簡単になります。Webtop とは異なり、アプリケーションを中断および再開することはできません。その代わりに、ログアウトすると、Client は実行中のアプリケーションセッションすべてを自動的に中断または終了します。再度ログインすると、Client は中断していたセッションを自動的に再開します。

印刷も簡単になります。印刷は常に「実行できる状態」になっていて、選択したプリンタに印刷ジョブが直接送信されます。Webtop とは異なり、印刷ジョブを個別に管理することはできません。

中断しているアプリケーションの再開や印刷の管理などの目的で、Webtop を表示する必要がある場合、「スタート」メニューまたは「起動」メニューの Webtop のリンクをクリックします。Webtop がデフォルトの Web ブラウザに表示されます。

Webtop コンテンツをグループで表示するように設定した場合は、「スタート」メニューまたは「起動」メニューでもそれらのグループが使用されます。Webtop コンテンツを表示しないように設定されているグループは、「スタート」または「起動」メニューにコンテンツは表示されません。

SGD からログアウトするには、「スタート」メニューまたは「起動」メニューの「ログアウト」リンクをクリックします。

統合モードで使用可能なデスクトップシステムの詳細については、[6 ページの「クライアントの要件」](#)を参照してください。

シングルサインオン

ユーザーがクライアントデバイスにログインしたときに、SGD Client が自動的に起動するように設定できるようになりました。SGD Client が認証トークンをキャッシュすることで、手動でログインせずにユーザーセッションを自動的に起動することも可能です。この方法で SGD Client を設定すると、ユーザーはシングルサインオンのメリットを享受できます。

自動ログインは、認証トークンの認証を使って実現されます。SGD Client が有効な認証トークンを提示すると、ユーザーは自動的に SGD に認証されます。認証トークンを取得するには、ユーザーは Web ブラウザを使って初期ログインを実行してから、クライアントプロファイルを編集して認証トークンを手動で生成する必要があります。ユーザーが接続する SGD サーバーごとに個別のトークンが必要になります。

プロファイルを使用したクライアント設定の管理

デスクトップの「スタート」メニューまたは「起動」メニュー、およびシングルサインオン機能を利用するには、SGD に接続できるように SGD Client を設定する必要があります。それだけではなく、ユーザーがオフィスにいる場合と自宅で作業を行う場合など、状況に応じて異なる設定が必要になる可能性があります。複数の Client 設定を管理できるように、version 4.3 では、SGD Client 設定のグループを格納する方法としてクライアントプロファイルが導入されました。クライアントプロファイルごとに、次の設定を行うことができます。

- SGD に接続するための URL
- SGD Client の動作モード (Webtop モードまたは統合モード)
- 自動ログインが有効かどうか
- ユーザーがクライアントデバイスにログインしたときに SGD Client を自動的に起動するかどうか
- プロキシサーバー設定 (設定をプロファイル内で手動で設定するか、Web ブラウザから自動的に引き継ぐか)
- 再接続設定 (SGD Client が SGD から切断された場合の動作の制御)
- ログ設定 (SGD Client のログファイルに書き込まれる情報の制御)。
- Solaris OS、Linux、および Mac OS X クライアント上で PDF 印刷に使用する PDF ビューアへのパス

SGD 管理者は、クライアントプロファイルを完全に制御できます。管理者の Webtop 上には、新しい管理ツールであるプロファイルエディタが表示されます。プロファイルエディタを使用すると、Tarantella System Objects 組織内の組織、組織単位 (OU) オブジェクト、およびプロファイルオブジェクトのクライアントプロファイルを作成および編集することができます。これらのオブジェクトのクライアントプロファイルを定義することで、管理者は一般的なデフォルト SGD Client 設定をユーザーに配備できます。

管理者は、ユーザーが独自のクライアントプロファイルを作成および編集できるかどうかを制御できます。ユーザーのプロファイル編集は、グローバルに、あるいは組織、組織単位、またはユーザーごとに有効にできます。デフォルトでは、ユーザーのプロファイル編集は有効に設定されています。ユーザーは、Webtop の「編集」ボタンを使ってプロファイルを作成および編集できます。

SGD には、システム規模のデフォルトプロファイルが存在します。これは、以前のリリースで実行可能であった標準の Webtop 動作をユーザーに提供するように設定されています。管理者は、このプロファイルを編集できます。

SGD Client が SGD に接続されると、ユーザー用に設定されたプロファイルが SGD からクライアントデバイスにコピーされます。ユーザーがこのプロファイルを編集すると、変更はクライアントデバイス上のみ格納されます。

モバイルプロキシサーバー設定

さまざまな場所から SGD に接続するとき、SGD Client に別のクライアントプロキシサーバー設定が必要になることがよくあります。ユーザーのプロキシ設定を適切に保つのは管理者にとっても困難な場合があります。version 4.3 では、モバイルプロキシサーバー設定が導入されています。モバイルプロキシサーバー設定がある場合、SGD Client はクライアントプロファイルのその設定を使って、プロキシサーバー設定を決定します。プロキシサーバー設定には、次のいずれかを指定できます。

- 手動。プロキシ設定はクライアントプロファイル自体に格納されます。
- 自動。プロキシ設定はユーザーのデフォルト Web ブラウザから取得されます。

SGD Client が統合モードで動作しており、Web ブラウザの設定を使用するように設定されている場合、SGD Client は、ユーザーのデフォルト Web ブラウザのプロファイル内で指定された URL を読み込むことで、プロキシ設定を取得します。SGD Client は取得した設定をキャッシュするので、キャッシュに格納されている設定を使用するように SGD Client を設定すると、ユーザーのデフォルト Web ブラウザを 1 回起動するだけで済みます。

注 – Web ブラウザ側の設定をもとにプロキシ設定を決めるためには、Web ブラウザ側で Java テクノロジーが有効になっている必要があります。

SGD Client で拡張されたコマンド行

クライアントプロファイルをサポートするために、すべてのプラットフォームの SGD Client でコマンド行が拡張されました。引数を使って次の項目を指定できます。

- 使用するプロファイル。
- SGD に接続するための URL。プロファイルの URL よりもこちらが優先されます。
- 優先的に使用する言語。

拡張されたコマンド行を使って、SGD Client の起動用スクリプトや単一アプリケーションの実行用スクリプトをユーザー独自に作成できます。

手動でインストールできる SGD Client

統合モードまたは Java テクノロジ非対応の Web ブラウザの環境での SGD Client の実行をサポートするために、SGD Client を手動でダウンロードおよびインストールすることができます。<http://server.example.com> で、SGD サーバーから SGD Client をダウンロードします。ここで、*server.example.com* は SGD サーバーの名前です。

「Sun SGD Client のインストール」をクリックして、SGD Client をインストールします。

新規 X サーバー

このリリースには、X11R6.8.2 に基づく新しい X サーバーが含まれています。新しい X サーバーは、version 4.2 と比較して、速度および帯域幅が大幅に改善されています。

更新されたサーバーがサポートする X 拡張機能を次に示します。

- BIG-REQUESTS
- BLINK
- DAMAGE
- DEC-XTAP
- DOUBLE-BUFFER
- Extended-Visual-Information
- GLX
- MIT-SCREEN-SAVER
- MIT-SHM
- MIT-SUNDRY-NONSTANDARD
- NATIVE-WND
- RDP
- RECORD
- RENDER
- SCO-MISC
- SECURITY
- SGI-GLX
- SHAPE
- SYNC
- TOG-CUP
- X-Resource

- XC-APPGROUP
- XC-MISC
- XFIXES
- XFree86-Bigfont
- XTEST
- XTTDEV

新しい X サーバーには、追加の X フォントのサポートも含まれます。Speedo フォントは使用できなくなりました。

新しい「X セキュリティー拡張機能」属性

X アプリケーションオブジェクトに新しい属性「X セキュリティー拡張機能」(`--securityextension`) が追加され、これを使ってアプリケーションの X セキュリティー拡張機能を有効にするかどうかを設定できます。安全でない可能性のあるアプリケーションサーバーから X アプリケーションを実行する必要がある場合は、X セキュリティー拡張機能を有効にして、アプリケーションを信頼されないモードで実行してください。これにより、X アプリケーションが X サーバー内で実行可能な操作が制限され、表示が保護されます。X セキュリティー拡張機能は、`-Y` オプションをサポートする SSH のバージョンでのみ動作します。OpenSSH の場合、これは 3.8 以降のバージョンです。

UNIX プラットフォーム、Linux、および Mac OS X クライアントの PDF 印刷

UNIX プラットフォーム、Linux、および Mac OS X クライアントデバイス上の SGD Client で、PDF 印刷がサポートされるようになりました。これらのクライアント上で SGD PDF プリンタでの印刷を行うと、ドキュメントが PDF ビューアに表示されます。この PDF ビューアで、ファイルの保存や印刷を実行できます。SGD がデフォルトでサポートする PDF ビューアは次のとおりです。

クライアントプラットフォーム	デフォルト PDF ビューア
SPARC テクノロジプラットフォーム上の Solaris OS	Adobe Reader (acroread)
x86 プラットフォーム上の Solaris OS	GNOME PDF Viewer (gpdf)
Linux	GNOME PDF Viewer (gpdf)
Mac OS X	Preview.app

デフォルトのビューアを使用するには、そのアプリケーションがユーザーの PATH 上に存在する必要があります。

代替の PDF ビューアを使用する場合は、SGD Client が使用するクライアントプロファイル内で代替ビューアのフルパスを指定できます。

注 – UNIX プラットフォーム、Linux、および Mac OS X クライアントデバイスで PDF プリンタを選択する場合、「Universal PDF プリンタ」プリンタと「Universal PDF ビューア」プリンタに違いはありません。ドキュメントは常に PDF ビューアに表示されます。

Microsoft Windows クライアントデバイス上の PDF 印刷については、変更はありません。

UNIX プラットフォームおよび Linux アプリケーションのクライアントドライブマッピング

クライアントドライブマッピング (CDM) が、UNIX プラットフォームおよび Linux アプリケーションで使用可能になりました。

Administration Console 内でクライアントドライブマッピングを有効に設定すると、UNIX プラットフォーム、Linux、および Windows アプリケーションでクライアントドライブマッピングが有効になります。

組織、組織単位、およびユーザープロファイルオブジェクトで使用可能なクライアントドライブへのアクセス権を管理する属性は、接続先が Windows、UNIX プラットフォーム、Linux アプリケーションのどれであるかに関係なく、Windows クライアントデバイスにのみ適用されます。

UNIX プラットフォーム、Linux、および Mac OS X クライアントデバイス用にマッピングされたドライブは、ユーザーの構成ファイル `$HOME/.tarantella/native-cdm-config` 内のエントリで制御されます。

クライアントドライブマッピングが UNIX プラットフォームおよび Linux アプリケーションで使用可能になるには、次の条件を満たす必要があります。

- SGD 拡張モジュールが、UNIX プラットフォームまたは Linux アプリケーションサーバーにインストールされ、稼働している必要があります。現在のところ、`/opt/tta_tem/bin/tem_startcdm` コマンドを使ってクライアントドライブマッピングサービスを手動で開始する必要があります。
- Network File System (NFS) サーバーがアプリケーションサーバーにインストールされ、稼働している必要があります。NFS サーバーは、クライアントドライブマッピングに使用するディレクトリをエクスポートする必要があります。デフォ

ルトでは、これは /smb です。/opt/tta_tem/etc/client.prf ファイル内で別のディレクトリを指定することもできます。このファイル内のエントリの形式は、NFS_server/mount/mountpoint です。

- クライアントドライブマッピングが、アレイ内で有効に設定されている必要があります。
- `tarantella start cdm` コマンドを使って、アレイ内で SGD クライアントドライブマッピングサービスを開始する必要があります。
- クライアントドライブへのアクセス権は、Administration Console (Windows クライアントの場合) およびユーザーの構成ファイル (UNIX プラットフォーム、Linux、および Mac OS X クライアントの場合) で設定する必要があります。

クライアントドライブマッピングを使用可能にすると、ユーザーのクライアントドライブまたはファイルシステムが、デフォルトでユーザーのホームディレクトリの `My SGD drives` ディレクトリ内で使用可能になります。My SGD drives ディレクトリは、クライアントドライブマッピングに使用される NFS 共有へのシンボリックリンクです。

Windows アプリケーションでのシリアルポートのサポート

Windows ターミナルサーバー上で Windows アプリケーションを実行するユーザーが、クライアントデバイスのシリアルポートにアクセスできるようになりました。

シリアルポートにアクセスするには、次の要件を満たす必要があります。

- 「ターミナル サービスの構成」で、COM ポートマッピングが有効に設定されている必要があります (デフォルトは有効)。
- Administration Console の「グローバル設定」⇒「クライアントデバイス」タブで、シリアルポートマッピングが有効に設定されている必要があります (デフォルトは有効)。
- 組織、組織単位、およびユーザープロファイルオブジェクトのいずれかで、シリアルポートへのアクセスが有効に設定されている必要があります。アクセス権は継承できます。
- SGD クライアントが、クライアントデバイス上のシリアルポートを列挙可能である必要があります。シリアルポートのマッピング方法の詳細については、『Sun Secure Global Desktop 4.4 管理者ガイド』を参照してください。

ユーザーは、アクセスするシリアルポートへの読み取り/書き込みアクセス権を保持している必要があります。

シリアルポートマッピングは、Windows、Solaris プラットフォーム、および Linux クライアントデバイス上で稼働する SGD Client で使用できます。

Microsoft Windows XP Professional でのリモートデスクトップのサポート

Microsoft Windows XP Professional のリモートデスクトップ機能では、リモートデスクトッププロトコルを使ってコンピュータにアクセスすることができます。たとえば、SGD とリモートデスクトップを使って、オフィスの外部のユーザーにオフィスの PC へのアクセスを許可できるようになりました。完全な Windows デスクトップセッションだけがサポートされます。

SGD 拡張モジュールを Microsoft Windows XP Professional クライアントデバイスにインストールして、クライアントドライブマッピングをサポートすることも可能です。高度な負荷分散およびシームレスウィンドウはサポートされません。

Windows Server 2003 ターミナルサービスを利用したコンソールセッションへの接続のサポート

SGD ターミナルサービスクライアント (ttatssc) は、追加オプション `-console` をサポートするようになりました。このオプションを使用すると、Windows Server 2003 ターミナルサービスを利用してコンソールセッションに接続できます。

このオプションは、Windows アプリケーションオブジェクトの「プロトコルの引数」(`--protoargs`) 属性を使って指定できます。

初期接続のセキュリティー

SGD Client と SGD サーバー間の最初の接続が SSL によって保護されるようになります。ただし、この接続は、ユーザーがログインしたあとに標準接続にダウングレードします。SGD との接続を恒久的にセキュリティー保護されたものにするには、SGD セキュリティーサービスを有効にしなければなりません。

TCP ポート 5307 は、SGD Client と SGD の間の SSL ベースの接続に使用されます。SGD Client の接続を許可するために、ファイアウォール内でこのポートを開くことが必要になる可能性があります。

SGD のアレイルート機能を使用すれば、サーバー側に SOCKS プロキシサーバーを設定できます。アレイルートは次のコマンドで設定します。

```
$tarantella config edit \  
--tarantella-config-array-netservice-proxy-routes route...
```

ルートに `:ssl` オプションが含まれる場合は、暗号化されていない接続が許可されるように SGD SSL デーモンを設定する必要があります。そのためには、Administration Console の「Secure Global Desktop サーバー設定」⇒「セキュリティ」タブにある「SSL アクセラレータのサポート」属性を使用するか、次のコマンドを使用します。

```
$tarantella config edit --security-acceptplaintext 1
```

承認されていないサーバーからのクライアントの保護

SGD Client の自動起動および自動ログインが可能になったため、ユーザーが信頼されている SGD サーバーにだけ接続することは特に重要です。このリリースでは、ユーザーは SGD への接続を明示的に承認する必要があります。

ユーザーが SGD にはじめて接続したとき、「信頼されない初期接続」警告メッセージが表示され、SGD サーバーに本当に接続するかどうかの確認を求められます。このメッセージには、接続先のサーバーのホスト名とセキュリティ証明書のフィンガプリントが表示されます。ユーザーは、これらの詳細を確認してから、「はい」をクリックする必要があります。ユーザーが接続に同意したあとは、問題が発生しないかぎり、これらのメッセージが表示されることはありません。

信頼されている SGD サーバーだけにユーザーが接続できるように、SGD 管理者は次のことを行なってください。

- 信頼されているサーバーのホスト名とフィンガプリントのリストをユーザーに提供します。フィンガプリントのリストを取得するには、アレイのメンバーごとに `tarantella security fingerprint` コマンドを使用します。
- サーバーに接続することに同意するとセキュリティ上どのように影響があるかをユーザーに説明します。

新しくインストールした状態では、各 SGD サーバーは自己署名付きのセキュリティ証明書を独自に保持しています。管理者は、SGD サーバーごとに、有効な X.509 証明書を取得してインストールしてください。

コピー&ペーストの制御

SGD 管理者が、Windows および X アプリケーションセッションのコピー&ペースト操作を制御できるようになりました。管理者は、次のようにコピー&ペーストを設定できます。

- SGD 全体で、コピー&ペーストを有効/無効にできます。

- 組織、組織単位、またはユーザープロファイルオブジェクトごとに、コピー＆ペーストを有効/無効にできます。これにより、管理者はコピー＆ペーストを許可するユーザーを制御できます。
- アプリケーションには、「Clipboard Security Level」を割り当てることができます。ターゲットアプリケーション (データを受信するアプリケーション) がソースアプリケーションと同等以上の「Clipboard Security Level」を保持する場合にのみ、データをコピーできます。これにより、管理者は特定のアプリケーションで使用可能なデータの安全性を確保できます。
- SGD Client には、「Clipboard Security Level」を割り当てることができます。SGD Client がソースアプリケーションと同等以上の「Clipboard Security Level」を保持している場合、クライアントデバイス上で稼働しているアプリケーションに対してだけデータをコピーできます。これにより、管理者は SGD 外部のデータ転送をセキュリティー保護できます。

ユーザーがセキュリティーレベルが異なるなどの理由によって許可されないコピー＆ペースト操作の実行を試みると、コピーしたデータではなく次のメッセージがペーストされます。

Sun SGD Software: Copied data not available to this application

アプリケーションサーバー認証用の SecurID のサポート

SGD に接続するユーザーを認証するために RSA SecurID を使用することに加えて、X アプリケーションや文字型アプリケーションの起動時のアプリケーションサーバーの認証にも SecurID を使用できます。

SecurID 認証を使用するときは、SGD を導入する前に、ユーザーが SecurID を使用してアプリケーションサーバーにログインできることを確認してください。SecurID 認証を使用する準備ができたなら、securid.exp ログインスクリプトを使用するようにアプリケーションを設定します。

ローカライズされたユーザーインターフェース

version 4.3 には、次の言語にローカライズされたユーザーインターフェースが含まれます。

- フランス語
- 日本語
- 韓国語
- 簡体字中国語
- 繁体字中国語

別の URL を参照するか、SGD Web サーバーの開始画面 (<http://server.example.com>) で言語を選択することにより、ユーザーは設定した言語で Webtop を実行できます。ここで、*server.example.com* は SGD サーバーの名前です。SGD Client も、設定した言語で起動できます。

Administration Console も、ユーザーインタフェースと同じ言語にローカライズされます。

ドキュメントの翻訳

次の表に、翻訳版の SGD ドキュメントを入手できるものを示します。

言語	リリースノート	インストールガイド	管理ガイド	リファレンスマニュアル	ユーザーガイド
フランス語	はい	はい	いいえ	いいえ	はい
日本語	はい	はい	はい	はい	はい
韓国語	はい	はい	いいえ	いいえ	はい
簡体字中国語	はい	はい	いいえ	いいえ	はい
繁体字中国語	はい	はい	いいえ	いいえ	はい

Expect スクリプト内の言語サポート

アプリケーションサーバー上でアプリケーションの起動に使用される Expect スクリプトが拡張され、異なる言語のシステムプロンプトがサポートされています。デフォルトでは、サポートされる言語は SGD でサポートされる言語と同じです。

Expect スクリプトを異なる言語のシステムプロンプトで動作させるため、アプリケーションサーバーオブジェクトに「プロンプトのロケール」(--hostlocale) 属性が新たに追加されました。この属性を使って、アプリケーションサーバーのロケールを指定できます。

version 4.40 での変更点

ここでは、Sun Secure Global Desktop Software 4.31 のリリース以降に変更された点について説明します。

サポートされるインストールプラットフォームの変更

このリリースでは、SGD でサポートされるインストールプラットフォームに次の変更が適用されます。

- SPARC プラットフォームと x86 プラットフォームで Solaris 10 OS Trusted Extensions がサポートされるようになりました。詳細については、[22 ページの「Solaris 10 OS Trusted Extensions のサポート」](#)を参照してください。
- Fedora Linux 7 (Intel x86 32 ビット) がサポートされるようになりました。Fedora Core 6 プラットフォームはサポートされなくなりました。

このリリースでサポートされるプラットフォームの詳細については、[第 1 章](#)を参照してください。

旧クライアントが今後取り除かれることについて

SGD version 4.31 は、Java テクノロジクライアント、SGD Native Client、および旧 Webtop が含まれる最後のリリースとなりました。4.40 リリースには、これらのクライアントは含まれていません。

この変更の結果、この SGD リリースでは、アプリケーションを Web ブラウザウィンドウに表示するように設定することはできません。「ウィンドウタイプ」属性 (--displayusing) の webtop オプションと newbrowser オプションは削除されました。

ログインと認証の順序

サービス拒否攻撃を防ぐセキュリティ機能として、ユーザーが SGD にログインするときのイベントの順序が次のように変更されました。

- SGD version 4.31 では、ログイン画面が表示される前に SGD Client が起動されていました。
- SGD version 4.40 では、ユーザーがログイン画面で正常に認証されたあとで SGD Client が起動されます。

SGD Client が起動したことは、デスクトップのタスクバーのアイコンで示されます。SGD へのログインの詳細については、『Sun Secure Global Desktop 4.4 インストールガイド』を参照してください。

SGD への接続をクライアントの IP アドレスに基づいて拒否することはできなくなりました。

サーバー証明書と複数の外部 DNS 名

以前のリリースでは、SGD サーバーの外部 DNS 名と X.509 証明書を関連付けるために `--tarantella-config-ssld daemon-certificates` 属性が使用されていました。

この属性はサポートされなくなりました。このリリースでは、CSR を生成する際に、外部 DNS 名をサブジェクト代替名として指定できます。

詳細については、[23 ページ](#)の「サーバー証明書のサブジェクト代替名」を参照してください。

Web サービスの変更

このリリースでは、Web サービスに次の変更が適用されています。

- 認証モデルの変更
- メソッド名の変更
- 新しい Web サービスオペレーション
- Document/Literal SOAP メッセージエンコーディング
- デバイスデータの照会

認証モデルの変更

4.31 リリースでは、ユーザーセッションを認証するために `startSession` メソッドと `authenticateSession` メソッドが使用されていました。

4.40 リリースでは、ユーザーセッションの作成と認証が単一のメソッド `authenticate` に組み込まれました。

`startSession` メソッドと `authenticateSession` メソッドは、4.40 リリースでは使用できません。

メソッド名の変更

4.31 リリースには、オーバーロードメソッドがいくつかありました。これらのメソッドは、そのパラメータの数とタイプで区別されていました。4.40 リリースでは、このようなオーバーロードメソッドの名前がすべて変更されました。また、4.40 リリースでは、`setSessionIdentity` メソッドの必須パラメータも変更されました。

次の表に、このリリースで変更されたメソッド名を示します。

インタフェース名	Version 4.31 でのメソッド名	Version 4.40 でのメソッド名
ITarantellaDatastore	modify(String, String, String[])	modifyReplace (String, String, String[])
ITarantellaEvent	adminSendClientSideMessage (String, String, String, String, String)	adminBroadcastClientSideMessage (String, String, String, String, String)
ITarantellaExternalAuth	setSessionIdentity (String, String)	setSessionIdentity (String, String, String)
ITarantellaPrint	printJobs(String)	printAllJobs(String)
ITarantellaWebtopSession	authenticateSession(String, String, String)	authenticate(String, String, String, String)
ITarantellaWebtopSession	authenticateSession(String, String, String, Item[], Item[])	authenticateExt(String, String, String, String, Item[], Item[])
ITarantellaWebtopSession	setTCCCConfiguration (String, String, String, String, String, Item[])	setTCCCConfigurationOverrides (String, String, String, String, String, Item[])
ITarantellaWebtopSession	startSession(*)	相当するものはありません

新しい Web サービスオペレーション

次の表に、新しい Web サービスオペレーションを示します。

インタフェース名	メソッド名	説明
ITarantellaDatastore	deleteObjects	SGD データストアからいくつかのオブジェクトを削除します。
	searchStart	指定された検索のためにサーバー側のリソースをクリーンアップします。
	searchNext	検索結果の次のサブセットを取得します。
	searchEnd	データストア検索を開始して結果のサブセットを返します。
ITarantellaEmulatorSession	adminCount	検索によって返される、一致するアプリケーションセッションの数を数えます。
	adminSearchEnd	指定された検索のためにサーバー側のリソースをクリーンアップします。
	adminSearchNext	検索結果の次のサブセットを取得します。
	adminSearchStart	検索を開始して結果のサブセットを返します。
	endSessions	複数のアプリケーションセッションを終了します。

インタフェース名	メソッド名	説明
ITarantellaPrint	adminCount	検索によって返される、一致する印刷ジョブの数を数えます。
	adminSearchEnd	指定された検索のためにサーバー側のリソースをクリーンアップします。
	adminSearchNext	検索結果の次のサブセットを取得します。
	adminSearchStart	検索を開始して結果のサブセットを返します。
ITarantellaWebtopSession	associateTCC	ユーザーセッションを既存の TCC 接続に関連付けます。
	authenticate	ユーザーセッションを認証します。
	authenticateExt	ユーザーセッションを認証します。
	createView	既存のユーザーセッションの新しいビューを作成します。
	adminEndSessions	複数のユーザーセッションを終了します。
	adminCount	検索によって返される、一致するユーザーセッションの数を数えます。
	adminSearchEnd	指定された検索のためにサーバー側のリソースをクリーンアップします。
	adminSearchNext	検索結果の次のサブセットを取得します。
ITarantellaUtility	SearchEnd	指定された検索のためにサーバー側のリソースをクリーンアップします。
	SearchNext	検索結果の次のサブセットを取得します。
	SearchStart	検索を開始して結果のサブセットを返します。

Document/Literal SOAP メッセージエンコーディング

SGD Web サービスに使用される SOAP メッセージエンコーディング形式が、RPC/Encoded から Document/Literal に変更されました。

SGD Web サービスの一覧を表示するには、<http://server.example.com/axis/services> にアクセスします。ここで、server.example.com は SGD サーバーの名前です。wsdl リンクをクリックすると、SGD Web サービスの Web Services Description Language (WSDL) リストを表示できます。

このページには、RPC/Encoded 形式の Web サービスの WSDL リストが引き続き含まれています。ユーザー独自のアプリケーションを開発する場合、RPC/Encoded 形式は使用しないでください。この形式の Web サービスは将来のリリリースで推奨されなくなります。

デバイスデータの照会

adminLookupSession オペレーションでデバイス情報が返されるようになりました。このオペレーションを使用して、--scottarawdevicedata および --scottadeviceaccessibledata デバイスデータ属性を照会できます。

返されたデバイス情報は、診断ツールとして使用できます。

Kerberos キャッシュのフラッシュ

tarantella cache コマンドの新しい設定を使用すると、SGD サーバーの現在の Kerberos 設定を更新できます。

新しいオプション krb5config は次のように使用されます。

```
$ tarantella cache --flush krb5config
```

この設定を使用すると、SGD サーバーを再起動しなくても、サーバーの Kerberos 設定を更新できます。この機能は Active Directory 認証だけに使用されます。

tem status コマンド

SGD 拡張モジュールのユーザーには、新しいコマンドが使用可能になりました。

tem status コマンドは、SGD アレイの負荷分散、UNIX プラットフォームオーディオ、およびクライアントドライブマッピングサービスに関するステータス情報を提供します。このコマンドは、インストールされているモジュールの一覧を表示し、それらが実行中かどうかを示します。

SGD Client はデフォルトで Java テクノロジを前提としない

SGD Client は、Microsoft Windows クライアントプラットフォームでは tcc コマンド、UNIX、Linux、または Mac OS X クライアントプラットフォームでは ttatcc コマンドを使用して、コマンド行から起動できます。

このリリースでは、SGD Client をコマンド行から起動した場合や統合モードで起動した場合、SGD Client はデフォルトで、クライアントデバイスで Java テクノロジが有効になっていないと見なします。tcc コマンドと ttatcc コマンドの新しい引数 -use-java を使用すると、SGD Client は Java テクノロジを使用するように設定されます。

以前のリリースでは、SGD Client はデフォルトで、Java テクノロジが有効になっていると見なしていました。tcc コマンドと ttatcc コマンドの `-no-java` 引数を使用すると、この動作を無効にすることができました。現在、この引数は推奨されなくなりました。

tcc コマンドと ttatcc コマンドに使用できる引数については、『Sun Secure Global Desktop 4.4 管理者ガイド』を参照してください。

SGD Client はクライアントデバイスの情報をログ記録する

SGD Client はクライアントデバイスの情報をログ記録するようになりました。印刷、シリアルポート、クライアントドライブマッピング、オーディオおよびスマートカードの各デバイスについて、デバイスアクセスデータとエラーメッセージがログに記録されます。

クライアントデバイスの情報は SGD Client のログファイルに書き込まれ、Webtop の「詳細な診断」ページに表示されます。

名前の変更されたコマンド行引数

いくつかの属性の名前が変更され、属性名がより短くなりました。これにより、コマンド行でこれらの属性を入力する際の誤りを防ぐことができます。

次の表に、変更された属性名を示します。

Version 4.31 での属性名	Version 4.40 での属性名
--tarantella-config-login-thirdparty-searchens	--login-thirdparty-ens
--tarantella-config-login-thirdparty-allownonens	--login-thirdparty-nonens
--tarantella-config-ldap-thirdpartyldapcandidate-useens	--login-ldap-thirdparty-ens
--tarantella-config-ldap-thirdpartyldapcandidate-useprofile	--login-ldap-thirdparty-profile
--tarantella-config-xpeconfig-timezonemapfile	--xpe-tzmapfile

「Windows NT Domain」属性

「Windows NT Domain」属性は、「ドメイン名」という名前に変更されました。この属性は、アプリケーションサーバーの認証プロセスに使用するドメインを指定します。

この属性を持つオブジェクトは、次のとおりです。

- アプリケーションサーバー
- Windows アプリケーション
- ユーザープロファイル

名前の変更された PDF プリンタ

SGD PDF プリンタの名前が、次の表のように変更されました。

リリース 4.31 でのプリンタ名	リリース 4.4 でのプリンタ名
Universal PDF	Universal PDF プリンタ
Print to Local PDF File	Universal PDF ビューア

ウィンドウが閉じるときの警告

「ウィンドウタイプ」が「独立ウィンドウ」に設定されているアプリケーションオブジェクトの場合、アプリケーションウィンドウを閉じるときに警告ダイアログが表示されるようになりました。このダイアログでは、アプリケーションセッションを終了するかどうかの確認が求められます。

クライアントプロファイルから削除された SOCKS プロキシ

SGD Client プロファイルを使って SOCKS プロキシサーバーを設定することはできなくなりました。

アレイルート機能を使用すれば、引き続き SOCKS プロキシサーバーを設定できます。次のコマンドを使用します。

```
$ tarantella config edit \  
--tarantella-config-array-netservice-proxy-routes \  
"192.168.10.*:CTSOCKS:taurus.indigo-insurance.com:8080"
```

この設定では、IP アドレスが 192.168.10 で始まるクライアントは、TCP ポート 8080 上で SOCKS プロキシサーバー `taurus.indigo-insurance.com` を使って接続します。

管理者の Webtop から削除された管理ツール

Object Manager、Array Manager、Session Manager、および Configuration Wizard の各管理ツールは、管理者の Webtop に表示されなくなりました。これらの管理ツールは、Administration Console と呼ばれるブラウザベースの管理ツールに置き換えられました。詳細については、[17 ページの「SGD Administration Console」](#)を参照してください。

Configuration Wizard は、Web アプリケーションのサンプルとして、SGD ディストリビューションに引き続き含まれています。Configuration Wizard を表示するには、<http://server.example.com/sgd/admin/configmgr/index.jsp> にアクセスします。ここで、`server.example.com` は SGD サーバーの名前です。

Session Manager は、Web アプリケーションのサンプルとして、SGD ディストリビューションに引き続き含まれています。Session Manager を表示するには、<http://server.example.com/sgd/admin/sessmgr/index.jsp> にアクセスします。ここで、`server.example.com` は SGD サーバーの名前です。

ログインスクリプトの変更

`/install-dir/var/serverresources/expect` ディレクトリ内のログインスクリプトが合理化されました。スクリプトの名前の変更や、スクリプトの統合が行われました。

アプリケーションサーバーの認証に SecurID を使用している場合、オブジェクトでは `securid/unix.exp` スクリプトの代わりに `securid.exp` スクリプトが使用されます。下位互換性のために、`securid/unix.exp` から新しい `securid.exp` スクリプトへのシンボリックリンクが用意されました。

ロケールに応じた入力方式の有効化

入力方式 (IM) はプログラムまたはオペレーティングシステムコンポーネントであり、キーボードにない文字や記号をユーザーが入力できるようにします。Microsoft Windows プラットフォームでは、IM は Input Method Editor (IME) と呼ばれます。

アプリケーションの実行中、`TTA_PREFERREDLOCALE`、`TTA_HOSTLOCALE`、または `LANG` (アプリケーション環境によって上書き) のいずれかの環境変数が IM を必要とするロケールに設定されている場合、SGD は IM を有効にします。IM を必要とするロケールは、`vars.exp` ログインスクリプトで定義されている `IM_localeList` 変数によって制御されます。

デフォルトでは、IM はすべての日本語、韓国語、および中国語ロケールで有効になっています。ほかのロケールで IM を有効にするには、`vars.exp` を編集して、`IM_localeList` 変数にロケールを追加する必要があります。

SGD Client 終了のタイムアウト

SGD Client が突然終了したためにアプリケーションが中止される場合、次のタイムアウト時間は 20 分延長されます。

- ユーザーセッション再開機能のタイムアウト - ユーザーセッション中に再開できるように設定されているアプリケーションの場合
- 一般的な再開機能のタイムアウト - 一般的に再開できるように設定されているアプリケーションの場合

version 4.31 での変更点

ここでは、Sun Secure Global Desktop Software 4.30 リリースから変更された点について説明します。

Solaris x86 プラットフォームの SecurID 認証

version 4.31 では、Solaris x86 プラットフォームに SGD をインストールするときに、SecurID 認証を使用できます。

統合モードでの複数の SGD サーバーのサポート

version 4.30 では、SGD Client が統合モードのときに接続できる SGD サーバーは 1 つだけでした。version 4.31 では、複数の SGD サーバーのときでも統合モードを使用できます。デスクトップの「スタート」メニューまたは「起動」メニューには、各 SGD サーバーのログインリンクが表示されます。

アレイルート

SGD のアレイルート機能を使用すれば、サーバー側に SOCKS プロキシサーバーを設定できます。アレイルートは次のコマンドで設定します。

```
$ tarantella config edit \  
--tarantella-config-array-netservice-proxy-routes route...
```

アレイルートが拡張されて、直接接続タイプを設定できるようになりました。プロキシサーバーを使用しなくても接続できるようにクライアントを指定するときは、接続タイプとして CTDIRECT を指定します。

アレイルート設定の例を、次に示します。

```
$ tarantella config edit \  
--tarantella-config-array-netservice-proxy-routes \  
"192.168.5.*:CTDIRECT:" \  
"192.168.10.*:CTSOCKS:taurus.indigo-insurance.com:8080"
```

この設定のときは、IP アドレスが 192.168.5 で始まるクライアントで直接接続が許可されます。IP アドレスが 192.168.10 で始まるクライアントは、TCP ポート 8080 上で SOCKS プロキシサーバー `taurus.indigo-insurance.com` を使って接続します。

SGD 起動スクリプト

version 4.31 では、SGD サーバーが再起動するときに SGD サービスを停止して起動するための起動スクリプトが、名前が変更されて再構築されています。

*Tarantella および *TarantellaWebserver スクリプトは、*sun.com-sgd-base という名前の 1 つのスクリプトに置き換えられています。SGD 拡張モジュールのための *tem スクリプトは、*sun.com-sgd-em という名前になっています。

信頼されない初期接続メッセージ

ユーザーが最初に SGD サーバーに接続するときに「信頼されない初期接続」警告メッセージが表示されますが、このメッセージが拡張されています。ユーザーがこのメッセージからサーバーのセキュリティー証明書を見ることができるようになりました。

無効になった Windows キー

SGD Windows ターミナルサービスセッションで、Windows キーがデフォルトで無効になっています。Windows キーは、ローカル Windows セッションだけで有効になります。SGD ターミナルサービスセッションで Windows の「スタート」メニューを表示するには、Alt + Home キーを押してください。

SGD ターミナルサービスクライアント (ttatasc) は、追加オプション `-windowskey on|off` をサポートするようになりました。このオプションを使えば、Windows キーのサポートを有効にできます。このオプションは、Windows アプリケーションオブジェクトの「プロトコルの引数」(--protoargs) 属性を使って指定できます。

version 4.30 での変更点

ここでは、Sun Secure Global Desktop Software 4.20 のリリース以降に変更された点について説明します。

インストール可能な単一パッケージ

version 4.3 では、SGD インストール用の単一パッケージが導入されました。SGD をインストールする際、以前は個別にインストールする必要のあったフォントパッケージなどのすべてのパッケージをインストールできます。使用できる SGD コンポーネントは、アレイにインストールされるライセンスキーによって管理されます。

SSL デーモンの常時稼働

SGD への初期接続が常にセキュリティ保護されるようになりました。これは、SGD セキュリティサービスが有効でない場合でも、SGD SSL デーモンが常に稼働していることを意味します。

UNIX プラットフォーム、Linux、および Mac OS X クライアントデバイスのユーザー設定ファイル

以前のリリースでは、UNIX プラットフォーム、Linux、および Mac OS X クライアントデバイス上の SGD Client の設定に、ユーザー設定ファイルが使用されていました。プロファイルが導入されたため、このファイルは使用されなくなりました。

「ウィンドウを閉じるアクション」(--windowclose) 属性

以前のリリースでは、「ウィンドウを閉じるアクション」(--windowclose) 属性は、「Display Using」が「client window management」に設定された X アプリケーションでのみ使用できました。この属性が拡張され、independent ウィンドウを使って表示するように設定された X、Windows、および文字型アプリケーションでも使用できるようになりました。

この変更により、独立ウィンドウを閉じた場合に、アプリケーションセッションを終了または中断できます。デフォルトでは、セッションが終了します。

UNIX プラットフォームのユーザー認証用の PAM のサポート

SGD は、UNIX プラットフォームのユーザー認証用の Pluggable Authentication Modules (PAM) をサポートするようになりました。この変更は、次の UNIX 認証機構に影響を与えます。

- ローカルリポジトリで Unix ID を検索 (ENS)
- デフォルトのユーザープロファイルを使用する (UNIX ユーザー)
- ローカルリポジトリで Unix グループ ID を検索 (UNIX グループ)

SGD は、ユーザー認証、アカウント操作、およびパスワード操作に PAM を使用します。

SGD を Linux プラットフォームにインストールすると、Setup プログラムにより、passwd プログラムの現在の設定がコピーされ、/etc/pam.d/tarantella ファイルが作成されて、SGD 用の PAM 設定エントリが自動的に作成されます。Solaris OS プラットフォームの場合、必要に応じて /etc/pam.conf ファイル内に SGD 用の新規エントリ (tarantella) を追加できます。

PAM を使用することにより、SGD 管理者は、UNIX プラットフォームのユーザー認証をより柔軟かつ強力に制御できます。たとえば、新規ログインテスト、アカウント制限、有効なパスワードのチェックなどを追加できます。

PDF 印刷

UNIX プラットフォーム、Linux、および Mac OS X クライアントデバイスでの PDF 印刷をサポートするためにこのリリースで加えられた変更の結果、「Display Adobe Reader Print dialog」(--pdfprompt) 属性が削除されました。

この変更のために、ユーザーが Windows クライアント上の「Universal PDF プリンタ」プリンタを使って印刷を実行すると、印刷ジョブがクライアントのデフォルトプリンタに自動的に送信されます。印刷ジョブを送信するクライアントプリンタを選択可能にするには、ユーザーは「Universal PDF ビューア」プリンタを選択する必要があります。

Active Directory 認証用のクライアント証明書

Active Directory 認証のために、認証ウィザードに「クライアント証明書」チェックボックスが用意されています。Active Directory でクライアント証明書が必須として設定されており、SGD 用のクライアント証明書が作成およびインストール済みである場合、特権ユーザーのユーザー名とパスワードを設定する必要はなくなりました。

SGD 証明書ストア

SGD 証明書ストア (`/install-dir/var/info/certs/sslkeystore`) で使用されるパスワードは、123456 にハードコードされなくなりました。その代わり、各ストアはランダムなパスワードを保持し、そのパスワードは `/install-dir/var/info/key` に格納されます。keytool アプリケーションの使用時に、このパスワードを `-storepass` および `-keypass` オプションとともに使用します。

ライセンス管理

version 4.2では、ライセンスが次のように変更されました。

- アレイを有効化する際にアクティベーションライセンスキーが必要ではなくなりました。
- Named user licensing が使用できなくなった。
- Maintenance and Right to upgrade license キーが使用できなくなった。

以前のバージョンからアップグレードした場合、既存の製品ライセンスキーは自動的に変換され、既存の Maintenance and Right to Upgrade license キーは削除されます。

アプリケーションの接続方法

version 4.1 から、SGD では、`rlogin` および `rcmd` 接続方法を使ったアプリケーションの起動をサポートしなくなりました。以前のバージョンからアップグレードした場合、この方法を利用していたすべてのアプリケーションで、接続方法を変更する必要があります。

同時 Webtop 接続属性

version 4.1 から、SGD は、「同時ユーザーセッションの最大数」の設定 (--tuning-maxconnections) に異なる属性を使用します。以前のバージョンからアップグレードする場合、この属性のデフォルト設定が適用されます。

メインフレーム (3270) アプリケーション

version 4.0 から、SGD はメインフレーム (3270) アプリケーション用に異なるエミュレータを使用します。3270 文字型および 3270 X アプリケーションオブジェクトは使用されなくなりました。これらは単一の 3270 アプリケーションオブジェクトで置き換えられています。新しい 3270 アプリケーションオブジェクトには複数の新しい属性が含まれるため、既存の 3270 アプリケーションオブジェクトをアップグレードすることはできません。以前のバージョンからアップグレードする場合、既存の 3270 文字型および 3270 X アプリケーションはアップグレード時に削除されます。このため、これらのアプリケーションを再設定する必要があります。

第3章

サポート情報、既知の問題、バグ修正、およびドキュメントの問題

この章では、SGD のサポート情報について説明します。

この章の内容は次のとおりです。

- 53 ページの「サポート終了」
- 54 ページの「既知のバグと問題」
- 66 ページの「version 4.40 で修正されたバグ」
- 68 ページの「version 4.31 で修正されたバグ」
- 69 ページの「version 4.30 で修正されたバグ」
- 77 ページの「Version 4.40 でのドキュメントの問題」

サポート終了

次の表に、SGD 製品のサポート終了日付を示します。

ソフトウェアとバージョン	サポート終了	限定的サポート終了	サービス終了
Sun Secure Global Desktop Software 4.3	2009 年 4 月 29 日	2013 年 4 月 29 日	2013 年 4 月 29 日
Sun Secure Global Desktop Software 4.2	2008 年 11 月 8 日	2012 年 11 月 8 日	2012 年 11 月 8 日
Secure Global Desktop Enterprise Edition 4.1			2007 年 3 月 31 日
Secure Global Desktop Enterprise Edition 4.0			2007 年 3 月 31 日
Secure Global Desktop Software Appliance 4.0			2007 年 3 月 31 日

ソフトウェアとバージョン	サポート終了	限定的サポート終了	サービス終了
Secure Global Desktop Enterprise Edition 3.44*			2007 年 12 月 31 日
Secure Global Desktop Enterprise Edition 3.42			2007 年 3 月 31 日
Tarantella Enterprise 3 (TASP を含む)			2007 年 3 月 31 日

* 日本語のみ

Sun のサービス終了 (EOSL) の方針に関する詳細は、
<http://www.sun.com/service/eosl/> を参照してください。

有効なサポート契約をお持ちのお客様は、最新バージョンの SGD に無料でアップグレードできます。

既知のバグと問題

ここでは、SGD version 4.40 に関する既知のバグと問題の一覧を示します。

602423 - Return キーとキーパッド Enter キーの問題

問題: SGD の X エミュレータと文字型エミュレータで、ユーザーのクライアントキーボードの Return キーとキーパッドの Enter キーを区別できません。

原因: 既知の問題点です。

解決策: デフォルトでは、SGD Client は、X アプリケーションセッションと文字型アプリケーションセッションの両方で、キーパッド Enter キーを Return キーにマップします。設定を追加することで、この動作を変更することができます。

文字型アプリケーションセッションでのキーパッド Enter キーの動作を変更するには、使用する文字型アプリケーションオブジェクト用のキーマップを設定して (--keymap)、KPENTER のマッピングを追加する必要があります。次に例を示します。

```
KPENTER="hello"
```

Windows または X アプリケーションセッションでのキーパッド Enter キーの動作を変更するには、使用する X キーマップ (xuniversal.txt など) を変更して、KP_Enter キーのマッピングを追加する必要があります。次に例を示します。

```
92 KP_Enter KP_Enter NoSymbol NoSymbol 0x801c
```

注意 - X キーマップはグローバルなユーザーリソースなので、この変更によってそのユーザーのすべてのアプリケーションが影響を受ける可能性があります。これらのアプリケーションに `KP_Enter` を処理しないものがある場合は、X/Windows アプリケーションのベンダーに対して問い合わせが必要になることがあります。

6443840 - プロキシサーバーの自動設定スクリプトが失敗する

問題: プロキシサーバーの自動設定スクリプトには、接続しようとするプロキシサーバーのリストを指定できます。リストの最初のプロキシサーバーに接続できない場合は、ブラウザは接続できるサーバーが見つかるまでほかのプロキシサーバーに順番に接続しようとします。

Microsoft Internet Explorer と Sun Java Plug-in ツール version 1.5.0 を同時に使用すると、リストの最初のプロキシサーバーのみが使用されます。そのプロキシサーバーを使用できない場合、接続は失敗します。

原因: 既知の問題点です。

解決策: Sun Java Plug-in ツール version 1.6.0 を使用してください。

6448990 - バックスラッシュキーと円記号キーの問題

問題: SGD 経由で実行中の Windows アプリケーションで PC106 日本語キーボードまたは Sun Type 7 日本語キーボードを使用している場合、円記号キーとバックスラッシュキーのどちらを押しても同じ結果になります。

原因: キー処理に関する既知の問題です。

解決策: クライアントデバイスの Xsun キーテーブルまたは Xorg キーテーブルを変更します。

たとえば、`/usr/openwin/etc/keytables/Japan7.kt` ファイルを次のように変更します。

```
...
#137      RN      XK_backslash  XK_bar  XK_prolongedsound
137      RN      XK_yen        XK_bar  XK_prolongedsound
...
#39       RN      XK_0         XK_asciitilde  XK_kana_WA      XK_kana_WO
39       RN      XK_0         XK_0         XK_kana_WA      XK_kana_WO
...
```

たとえば、`/usr/X11/lib/X11/xkb/symbols/sun/jp` ファイルを次のように変更します。

```
...
# key <AE13> { [ backslash, bar          ], [ prolongedsound    ]          };
# key <AE13> { [ yen, bar                ], [ prolongedsound    ]          };
...
# key <AE10> { [ 0, asciitilde          ], [ kana_WA, kana_WO    ]          };
# key <AE10> { [ 0, 0], [ kana_WA, kana_WO    ]          };
...
```

変更後に、`dtlogin` を再起動する必要があります。

```
# /etc/init.d/dtlogin stop
# /etc/init.d/dtlogin start
```

6456278 - root ユーザーで統合モードが動作しない

問題: Solaris 10 x86 プラットフォームでは、root ユーザーでのログイン時に統合モードを有効にすると、アプリケーションが Solaris 10 の「起動」メニューに表示されません。次の警告が表示されることがあります。

```
gnome-vfs-modules-WARNING **: Error writing vfolder configuration
file "///.gnome2/vfolders/applications.vfolder-info": File not found.
```

原因: GNOME Virtual File System (VFS) の既知の問題です。

解決策: 現在のところ、解決策はありません。

6458111 - 統合モードを使用すると GNOME メインメニューがクラッシュする

問題: SUSE Linux Enterprise Server 10 を実行しているクライアントデバイスでは、SGD Client を統合モードで使用すると GNOME メインメニューがクラッシュします。クラッシュは、通常、ログイン時またはログアウト時に発生します。

原因: SUSE Linux Enterprise Server 10 の GNOME メインメニューアプレットの既知の問題です (Novell バグ参照 186555)。

解決策: SUSE Linux Enterprise Server 10 の `gnome-main-menu.rpm` パッケージの最新バージョンをインストールしてください。

あるいは、「最近使用したアプリケーション」機能を無効にすると、GNOME メインメニューの安定性が向上します。クライアントデバイス上で、次のコマンドを実行します。

```
$ gconftool-2 --set --type=list --list-type=int \  
/desktop/gnome/applications/main-menu/lock-down/showable_file_types [0,2]  
$ pkill main-menu  
$ pkill application-browser
```

6461864 および 6476661 - GNOME デスクトップで自動ログインモードと統合モードが失敗する

問題: 自動クライアントログインモードまたは統合モードを有効にしたあと、GNOME デスクトップにログインしても SGD Client が自動的に起動せず、SGD にログインしても Webtop コンテンツに合わせて「スタート」メニューが更新されません。この問題は、SUSE Linux Enterprise Server 9 と Red Hat Enterprise Linux 4 に影響します。

原因: `.menu` ファイル内のディレクトリは監視されないため、「スタート」メニューに加えた変更は検出されません。

解決策: 回避策として `pkill gnome-panel` コマンドを実行し、GNOME パネルを再起動して新しいメニュー情報を取得します。

注 - メニューを変更するたびに、`pkill gnome-panel` コマンドを実行してメニューを更新する必要があります。

6468716 - GNOME セッションでキーボードを使用できない

問題: Sparc プラットフォームの Solaris 10 OS 上で GNOME セッションを起動したあと、キーボードから何も入力できなくなります。ただし、マウスは正常に使用できます。

原因: リモート GNOME セッションの既知のバグです。Sun Microsystems バグ参照は 6239595 です。

解決策: この問題は、パッチ番号 119542 で修正されています。このパッチは、GNOME デスクトップ用の累積パッチ ID 122212 にも含まれています。

この問題は、次の内容を含む GNOME 構成ファイル
/etc/gconf/gconf.xml.defaults/apps/gnome_settings_daemon/keybindings/%gconf.xml を作成することで回避できます。

```
<?xml version="1.0"?>
<gconf>
<entry name="volume_up" mtime="1110896708" type="string">
<stringvalue></stringvalue>
</entry>
<entry name="volume_mute" mtime="1110896705" type="string">
<stringvalue></stringvalue>
</entry>
<entry name="volume_down" mtime="1110896702" type="string">
<stringvalue></stringvalue>
</entry>
<entry name="help" mtime="1110896698" type="string">
<stringvalue></stringvalue>
</entry>
</gconf>
```

6470197 - SGD Web サーバーモジュールのコンパイルに失敗する

問題: SGD Web サーバーで使用するユーザー独自の Apache モジュールをコンパイルすると、egcc コンパイラが存在しないためにコンパイルが失敗します。

原因: SGD Web サーバー用拡張モジュールの構築に使用する Apache eXtenSion ツール (apxs) の構成ファイルは egcc コンパイラを使用しますが、システムでこれを利用できません。

解決策: システムで利用可能なコンパイラを使用するように apxs 構成ファイルを修正するか、システム内のコンパイラにリンクする egcc へのシンボリックリンクを作成します。apxs 構成ファイルは `/install-dir/webserver/apache/version/bin/apxs` にあります。

6476194 - SGD Client 用の KDE デスクトップメニュー項目が表示されない

問題: SUSE Linux Enterprise Server 10 で、SGD Client のショートカットが KDE デスクトップメニューに表示されません。

原因: KDE メニューシステムの SUSE 固有の設定では、メニューに含まれるアプリケーションエントリが 1 つだけの場合は、メニューではなくその単一のアプリケーションがメインメニューに表示されます。メニューエントリがサブメニューの場合、サブメニューは一切表示されません。このため、統合モードの SGD Client 用の「ログイン」メニューは表示されません。

解決策: 回避策として、次の行を `$HOME/.kde/share/config/kickerrc` ファイルの `[menus]` セクションに追加します。
`ReduceMenuDepth=false`

その後、次のコマンドを KDE パネルに実行して、変更をただちに反映させます。

```
# dcop kicker kicker restart
```

以降のすべての KDE セッションで、この設定が自動的に使用されます。

6477187 - Microsoft ネットワーク用クライアントがないとクライアントドライブマッピングが失敗する

問題: Microsoft Windows アプリケーションサーバー上で Microsoft ネットワーク用クライアントが無効になっていると、クライアントドライブマッピングが失敗します。

原因: ファイルおよびフォルダへのリモートアクセスを許可するには、Microsoft ネットワーク用クライアントが有効になっている必要があります。

解決策: Microsoft ネットワーク用クライアントを有効にします。

▼ Microsoft ネットワーク用クライアントを有効にする方法

1. 「コントロール パネル」で「ネットワーク接続」をダブルクリックします。
2. ネットワークカードを右クリックし、「プロパティ」を選択します。
3. 「全般」タブで、「Microsoft ネットワーク用クライアント」の横のボックスにチェックマークを付けます。
4. 「OK」をクリックします。

6481312 - アップグレードすると使用可能な接続タイプがリセットされる

問題: version 4.40 にアップグレードすると、セキュア接続のみを受け付けるように設定されたサーバーが標準接続とセキュア接続を受け入れるようになります。

原因: 既知の問題点です。

解決策: セキュア接続だけを受け入れるようにサーバーを再設定します。

Administration Console で、「Secure Global Desktop サーバー」⇒ SGD サーバーの「セキュリティ」タブを表示し、「接続タイプ」フィールドの「標準」チェックボックスの選択を解除します。または、次のコマンドを実行します。

```
$ tarantella config edit --security-connectiontypes ssl
```

6482912 - SGD Client が自動的にインストールされない

問題: Microsoft Windows Vista プラットフォームで Internet Explorer 7 を使用している場合、SGD Client のダウンロードおよびインストールは自動的に実行されません。手動で SGD Client をインストールできます。また、Firefox などの別のブラウザを使用すれば、自動的にインストールできます。

原因: Internet Explorer にはプロテクトモードがあり、このモードのために SGD Client の自動ダウンロードおよびインストールが妨げられます。

解決策: Internet Explorer の「セキュリティ設定」の「信頼済みサイト」リストに SGD サーバーを追加します。

6493374 - 入力方式ウィンドウ内の非 ASCII 文字

問題: 簡体字中国語および繁体字中国語のユーザーは、Solaris OS アプリケーションサーバーでアプリケーションを実行中に、入力方式の候補ウィンドウとステータスウィンドウに非 ASCII 文字を表示できません。この問題は、Solaris 8、9、10、および 10u1 OS プラットフォームで発生します。

原因: SGD サーバーのフォントパス設定が欠落しています。

解決策: アプリケーションサーバーが Solaris10 または Solaris10u1 上で稼働している場合は、次のいずれかを実行します。

- SPARC プラットフォームの場合は、パッチ 120410、120412、および 120414 をインストールします。
- x86 プラットフォームの場合は、パッチ 120411、120413、および 12041 をインストールします。
- Solaris 10u2 以降にアップグレードします。

アプリケーションサーバーが Solaris 8 または Solaris 9 上で稼働している場合は、次のいずれかを実行します。

- 簡体字中国語。Administration Console の「アプリケーション」⇒「起動」タブで、「環境変数」を「LANG=zh;LC_ALL=zh」と設定します。
- 繁体字中国語。Administration Console の「アプリケーション」⇒「起動」タブで、「環境変数」を「LANG=zh_TW;LC_ALL=zh_TW」と設定します。

6542943 - Sun Java Plug-In ツール Version 1.5 を使用すると Firefox が異常終了する

問題: Sun Java Plug-In ツール version 1.5.0 を使用すると、Firefox Web ブラウザが突然終了します。

原因: Sun Java Plug-In ツールのリリース 1.5.0 では、Java 仮想マシン (JVM) ソフトウェアのパスが変更されました。

解決策: Firefox のプラグインディレクトリから JVM の格納場所 (`/usr/local/jre-version/plugin/i386/ns7/libjavaplugin_oji.so`) へのシンボリックリンクが存在することを確認します。ここで、*jre-version* は、Java Runtime Environment (JRE™) ソフトウェアのバージョンです。

6555834 - Java テクノロジーがブラウザでは有効になっているが、クライアントデバイスにインストールされていない

問題: Java テクノロジーが Web ブラウザの設定で有効になっていても、Sun Java Plug-in ツールがクライアントデバイスにインストールされていない場合、SGD Webtop は表示されません。ログインプロセスはスプラッシュ画面で停止します。

原因: SGD は、Web ブラウザの設定を使って、Java テクノロジーを使用するかどうかを決定します。

解決策: Sun Java Plug-in ツールをインストールし、Web ブラウザのプラグインディレクトリから JVM の格納場所へのシンボリックリンクを作成します。詳細については、Web ブラウザのマニュアルを参照してください。

6591516 - Webtop のページ切り替えが Internet Explorer で動作しない

問題: Symantec Client Firewall の一部のバージョン (Version 8.7.4.79 など) では、Internet Explorer を使用している場合にログインの問題が発生することがあります。ログインプロセスはスプラッシュ画面で停止し、SGD Webtop は表示されません。

原因: JavaScript オペレーションの一部がファイアウォールによって遮断されます。

解決策: SGD サーバーを安全なホストとして設定します。詳細については、Symantec のマニュアルを参照してください。

6592560 - Administration Console のオンラインヘルプを HTTPS で使用できない

問題: SGD Web サーバーへの HTTPS 接続が有効になっている場合、Administration Console のオンラインヘルプは使用不可になります。

原因: Administration Console は、JavaHelp™ ソフトウェアを使ってオンラインヘルプを表示します。HTTPS 接続を介して JavaHelp を実行するには、追加の設定作業が必要になります。

解決策: SGD Web サーバーのセキュリティー保護に使用されている証明書を、JDK™ ソフトウェアのキーストアにインポートします。Java ソフトウェアの `keytool` アプリケーションを次のように使用します。

```
$ keytool -import -keystore -storepass changeit \  
/install-dir/bin/jdk-version/jre/lib/security/cacerts \  
-file /install-dir/var/tsp/ca.pem
```

ここで、`changeit` はキーストアのパスワード、`jdk-version` は SGD サーバーにインストールされている JDK のバージョンです。

`ca.pem` ファイルに複数の証明書が含まれている場合は、各証明書を個別に追加してください。

6598048 - Windows アプリケーションでカナダ系フランス語用キーボードが正しくマッピングされない

問題: カナダ系フランス語 (旧バージョン) のキー配列を Windows アプリケーションで使用する場合に、一部のフランス語文字が正しく印刷されません。

原因: カナダ系フランス語 (旧バージョン) のキー配列に関する既知の問題です。

解決策: 現在のところ、有効な解決策はありません。現在のところ、互換性のあるキーマップファイルは SGD で提供されていません。

6605404 - Tomcat リソースファイルの場所の変更

問題: version 4.40 にアップグレードしたあとで、SOAP セキュア接続を設定する際に問題が発生することがあります。

原因: このリリースでは、`Resources.properties` リソースファイルの場所が変更されました。このファイルは、Tomcat JSP コンテナへの SOAP 接続をセキュリティーで保護する場合に必要になります。version 4.31 では、このファイルは次の場所にありました。

```
/install-dir/webserver/tomcat/version/webapps/sgd/WEB-INF/classes/com/tarantella/tta/webservices/client/apis/Resources.properties
```

version 4.40 では、このファイルは次の場所にあります。

```
/install-dir/webserver/tomcat/version/shared/classes/com/tarantella/tta/webservices/client/apis/Resources.properties
```

解決策: `Resources.properties` ファイルを見つけ、編集します。Tomcat JSP コンテナを再起動します。

6609001 - 停止しているセカンダリサーバーを Administration Console を使って切り離すことができない

問題: セカンダリサーバーが停止している場合、Administration Console を使って SGD アレイから削除することはできません。tarantella array detach コマンドを使った切り離し操作は、影響を受けません。

原因: このリリースでは、停止しているセカンダリサーバーを Administration Console を使って切り離すことはサポートされていません。

解決策: 停止しているセカンダリサーバーを再起動し、Administration Console を使って SGD アレイから切り離します。または、tarantella array detach コマンドを使って、停止しているセカンダリサーバーを削除します。

6609518 - セカンダリサーバーから Administration Console を実行している場合のアレイへの追加

問題: 既存のセカンダリサーバーから Administration Console を実行している場合、SGD アレイに新しいセカンダリサーバーを追加できません。

原因: このリリースでは、複数のセカンダリサーバーの資格情報を提供することはできません。

解決策: プライマリサーバー上、またはアレイに追加するサーバー上で、Administration Console を実行します。

6610760 - PDF プリンタのカスタム設定が Windows アプリケーションに適用されない

問題: Windows アプリケーションから印刷する場合に、PDF プリンタのカスタム設定が適用されません。

たとえば、組織単位オブジェクトに対して SGD の「Universal PDF プリンタ」プリンタと「Universal PDF ビューア」プリンタを使用可能にしたとします。その後、親オブジェクトの設定を上書きして、組織単位内のあるユーザーに対して「Universal PDF プリンタ」プリンタと「Universal PDF ビューア」プリンタを使用不可にします。この場合、このユーザーにはプリンタのカスタム設定は継承されません。

原因: PDF プリンタ設定の継承に関する既知の問題です。

解決策: 現在のところ、有効な解決策はありません。可能な場合は、ユーザーレベルではなく組織単位レベルまたは組織レベルで PDF プリンタの設定を行なってください。

6611502 - セカンダリサーバーからオブジェクトの作成と変更を行う際のエラー

問題: Administration Console をセカンダリ SGD サーバー上で実行している場合にオブジェクトの作成や変更を行うと、次のエラーメッセージが返されます。「オブジェクトを作成できませんでした。」

原因: オブジェクトの作成や変更は正常に行われますが、複製されたデータがプライマリサーバーから戻ってくる前に、Administration Console が処理を続行します。

解決策: 数秒待ってから操作を繰り返します。

Sun Type 7 日本語キーボードの問題

問題: Sun Type 7 日本語キーボードのユーザーは SGD で文字を正しく入力できません。

原因: クライアントデバイス上に Solaris OS キーテーブルがありません。

解決策: 適切なパッチをインストールして、クライアントデバイスにキーテーブルをインストールします。

プラットフォーム	パッチ
SPARC プラットフォーム上の Solaris 10 OS	121868
SPARC プラットフォーム上の Solaris 9 OS	113764
SPARC プラットフォーム上の Solaris 8 OS	111075
x86 プラットフォーム上の Solaris 10 OS	121869
x86 プラットフォーム上の Solaris 9 OS	113765
x86 プラットフォーム上の Solaris 8 OS	114539

「スタート」メニューの項目がアルファベット順に表示されない

問題: Microsoft Windows クライアントデバイス上で統合モードの SGD Client を使用中に、「スタート」メニューのエントリがアルファベット順に表示されません。

原因: Windows の機能では、新しい項目はメニューの末尾に追加され、アルファベット順に並び替えられないため、このようになります。

解決策: 詳細については、Microsoft KB article 177482 を参照してください。

Sun Java Desktop Systems で「起動」メニューのエントリが表示されない

問題: Sun Java Desktop Systems で統合モードを有効に設定したとき、SGD の「起動」メニューエントリが作成されません。「起動」メニューエントリは、デスクトップからログアウトしてから再度ログインすると追加されます。

原因: GNOME パネルの既知の問題です。

解決策: 次のパッチをインストールします。

- 119906 - SPARC テクノロジプラットフォームの Solaris OS の場合
- 119907 - x86 プラットフォームの Solaris OS の場合

解決方法は、デスクトップからログアウトしてから再度ログインすることです。

version 4.40 で修正されたバグ

次の表に、4.40 リリースで修正された重要なバグの一覧を示します。

参照	説明
2144612	Active Directory 認証により、次のグローバルカタログサーバーへのフェイルオーバーが実行されない。
2147536	不正なパスワードを入力すると、ttaxpe コマンドが終了しない。
2148699	複数の外部 DNS 名があると CDM が失敗する。
2148700	X アプリケーションで特定のウィンドウが開かれると、SGD Client が異常終了する。

参照	説明
2148811	ターミナルサービスのプリンタ設定が、Zebra バーコードプリンタには永続的に設定されない。
2149630	SSGD 4.30.915 では韓国語キーボードが正しく動作しない。
2150849	シリアル COM ポートのリダイレクトに関する断続的な問題。
2151274	フランス語ロケールのウィンドウでアクセント記号付きの文字が正しく表示されない。
6469935	SGD Client は、ホスト名を証明書の subjectAltName 拡張内の DNS 項目と照合させることができるべき。
6478585	Java 仮想マシンの SSL キーおよび証明書ストアがアップグレード時に破棄される。
6520742	プライマリ SGD サーバーで tarantella security peerca --show コマンドが失敗する。
6525004	SGD Client におけるクライアントデバイスのアクセスロギングの拡張。
6527507	Web サービスの障害に関するエラー報告の改善。
6532425	tta_tem が標準以外のディレクトリにインストールされている場合、UNIX CDM が失敗する。
6532764	複数の LDAP サーバーが設定されている場合、LDAP フェイルオーバーがシームレスにならない。
6537643	ダイアログの表示中にアプリケーションが終了すると SGD Client がクラッシュする。
6541478	Sun Ray Client でローカルオーディオの再生中に、SGD からオーディオを再生すると SGD セッションがハングアップする。
6541914	状況によっては Windows Vista で CDM が動作しない。
6542533	MacOS X 10.4.9 の Safari で、起動したアプリケーションが Webtop に表示されない。
6544350	アレイで Webtop の印刷コントロールが不安定になる。
6546840	SUSE Linux Enterprise Server 9 で統合モードが有効にならない。
6547337	ttatcc コマンドの -preferredlanguage オプションを使用すると、ページが適切なロケールで開かない。
6550172	負荷分散グループでオフライン状態のサーバーを選択した場合、起動に失敗する。
6552038	ttaxpe デバッグロギングの改善。
6553252	SGD Client がセグメント例外を発生して終了し、Electric Fence アプリケーションによって終了される。
6558691	プライマリが停止した場合やアレイが分離された場合にセカンダリのライセンスが削除される。

参照	説明
6561306	ssh 引数を更新する前に ssh バージョンを確認する必要がある。
6563481	execpe ログファイルのエラーメッセージの改善。
6571826	3270 オブジェクトと 5250 オブジェクトを作成するためのコマンド行が、すべての引数を正しく受け取らない。
6574469 6574471	Solaris プラットフォームと Linux プラットフォームで、Java Platform, Standard Edition を 1.6.0_01 以降 (サードパーティー) に更新する必要がある。
6583316	SGD クライアントの CDM をクライアントごとに無効にすること
6583333	sshhelper が setuid の場合は ssh の起動が失敗し、SGD ユーザーにホームディレクトリが割り当てられない。
6597576	Linux プラットフォームの SGD 拡張モジュールは、デフォルト以外のパスにはインストールされない。
6598686	複数のロケールでアプリケーションタイトルが正しく表示されない。
6601084	統合モードでは、「Start In」ボックスで指定されたフォルダは無効である。

version 4.31 で修正されたバグ

次の表に、4.31 リリースで修正された重要なバグの一覧を示します。

参照	説明
2140625	UNIX プラットフォーム上のクライアントのタイムゾーン リダイレクトが修正された。
2145026	ライセンス情報をすべてのセカンダリにコピーするには再起動する必要がある。
2145602	X アプリケーションの起動が遅かったりタイムアウトになったりする。 procs.exp スクリプトの入力方式の処理に問題がある可能性がある。
2145932	SGD セッションに戻るときに Windows キーの機能が抑制される。
2146043	クライアントドライブマッピングを使用しているときに、大きなファイルを上書きできない。
2146285	Tomcat に障害が発生し、Webtop にアイコンが表示されない。
6440254	プロキシサーバー認証ダイアログにレルム情報が表示されない。
6443192	Solaris OS で pkgadd コマンドを使ってアップグレードすると、数百のファイルが競合していることが報告される。
6443840	SGD Client がプロキシサーバー設定 (PAC) ファイルからのプロキシフェイルオーバーを認識しない。

参照	説明
6474180	SGD Web サーバーの <code>HARD_SERVER_LIMIT</code> が 1024 に増えている。
6480225	統合モードのときに、アプリケーションが UNIX クライアントプラットフォームの再開に失敗する。
6494450	クライアントドライブマッピングが 2G バイトを超えるファイルに対応できない。
6499639	UNIX および Linux プラットフォーム上でクライアントドライブマッピングを使用しているときに、再帰的なディレクトリ要求を行うと、セグメント例外が発生する。
6503627	<code>xfrbelgian.txt</code> キーボードマップファイルに間違いがある。
6518152	Microsoft Windows Vista クライアントデバイスで統合モードを使用するときに、「スタート」メニューが更新されない。
6518638	<code>tarantella print cancel</code> コマンドを実行すると、選択した印刷ジョブだけでなくすべての印刷ジョブが削除される。
6525384	XRDP で SGD を使用できない。
6528037	ホストを含むグループが Webtop に誤って配備されると、Webtop に「ページが見つかりません」というメッセージが表示される。
6506222	アプリケーションを起動するときに、ユーザーの <code>.xdefaults</code> ファイルが使用されない。

version 4.30 で修正されたバグ

ここでは、4.30 リリースで修正された重要なバグの一覧を示します。バグ修正は、次の分野にわたっています。

- [70 ページの「管理ツール」](#)
- [70 ページの「アプリケーションの起動」](#)
- [71 ページの「クライアントと Webtop」](#)
- [72 ページの「エミュレーション」](#)
- [73 ページの「インストールとアップグレード」](#)
- [73 ページの「国際化とローカリゼーション」](#)
- [74 ページの「その他」](#)
- [75 ページの「印刷」](#)
- [75 ページの「セキュリティ」](#)
- [76 ページの「サーバー」](#)
- [76 ページの「ユーザー認証」](#)

■ 77 ページの「Web サービス」

管理ツール

SGD 管理ツールの次のバグが修正されています。

参照	説明
6433525	起動時に /usr/bin の所有者が ttasys に変更される。
6436735	tarantella object new_xapp コマンドが --accel 引数を受け付けない。
6437203	ENS オブジェクトの名前を変更すると、オブジェクトマネージャーにより警告メッセージが表示される。
6445405	コマンド行からシャドウイングを実行すると、無効なセッション ID が取得される。
6447937	環境を使って X 認証機能 Cookie を受け渡してはいけない。
6450323	オブジェクトの作成時には属性を指定できないが、オブジェクトの編集時には属性を設定できる。
6451537	tarantella license コマンドおよび Array Manager により、廃止されたソフトウェアコンポーネントが表示される。

アプリケーションの起動

アプリケーションの起動に関する次のバグが修正されています。

参照	説明
6357003	Solaris OS 上で、Native Client から Web ブラウザを起動できない。
6357022	Java Desktop System 上で、Native Client が全画面 Webtop に切り替えられる。
6392279	X 認証の発行が原因で起動が失敗する。
6401949	unix.exp ログインスクリプトで optimizelaunch を有効に設定すると、有効期限切れパスワードハンドラが動作しない。
6405808	起動処理中にフィルタリングスクリプト (runsubscript.exp) が呼び出されない。
6416951	新規ブラウザウィンドウアプリケーションを「X」ボタンを使って終了すると、エラーメッセージが表示される。

参照	説明
6419574	8 文字を超えるパスワードを入力すると、認証ダイアログで壊れたデータが返される。
6427189	ホストが SSH に認識されていない場合、起動が失敗する。
6434660	アプリケーション起動時にパスワードの有効期限処理が動作しない。
6447551	各 Webtop セッションで作成される ttacpe プロセスは 1 つだけでなければならない。
6455378	SGD ホストで実行中のアプリケーションに対して、su を実行して SSH を使用すると起動が失敗する。
6464809	システムログインバナーに # 文字が含まれると、自動化された起動処理が失敗する。
6470173	PAM 対応 SecurID ACE エージェントのサポートを追加する。
6475303	カスタム認証局の証明書が認識されないため、定位置アプリケーションの起動時にプロンプトが表示される。
6476180	kiosk モードの GNOME セッションからログアウトしても、ルートウィンドウが表示されたままになる。

クライアントと Webtop

SGD クライアントと Webtop に関する次のバグが修正されています。

参照	説明
6408157	ローカル X サーバーアプリケーションが JSP ソフトウェア Webtop から起動しない。
6417140	アプリケーションを起動すると Webtop のフレームが空白になる。
6417575	プロキシサーバーを使用する Unix Native Client: ログインしてからログアウトし、再度ログインすると Native Client がハングアップする。
6417631	UNIX Native Client: kiosk アプリケーションで再描画の問題が発生する。
6424776	Webtop からログアウトすると、SGD Client でエラーが発生して終了する。
6432133	接続進行状況ウィンドウを閉じると、SGD Native Client でセグメント例外が発生する。
6465959	SGD を再起動すると、SGD Client が自動的に大量のネットワークパケットを送信する。
6468173	Sun Ray シンクライアント上で、待機状態カーソルが永続的に設定されなくなった。

エミュレーション

エミュレーションに関する次のバグが修正されています。

参照	説明
6381531	セキュリティーが有効に設定されている場合、 <code>colormap.txt</code> の編集内容が断続的に無視される。
6386091	SGD Native Client for Windows と Citrix ICA X Client: キーイベントの非互換性の問題が発生することがある。
6415498	ファンクションキーを押すと、文字端末セッションが予期せずに関閉じられる。
6417698	Solaris 10 OS 上の Java Desktop System で、ScrollLock キーが押されているとスクロールウィンドウアプリケーションの切り替えが実行されない。
6426355	<code>ttaxpe</code> がセグメント例外を発生して終了する。
6427789	コピー (Ctrl+Insert キー) を実行すると X アプリケーションがハングアップする。
6433273	Solaris OS 上で Native Client を使用すると、kiosk モードが正しく表示されない。
6435437	シームレスウィンドウを使用している場合、親ウィンドウの下に子ウィンドウが表示されることがある。
6435489	Windows アプリケーションのパフォーマンスが改善された。
6435527	HP 監視ツールの実行中に <code>ttaxpe</code> でセグメント例外が発生する。
6445467	ターミナルサービスセッションで Windows ログキーが動作しない。
6446469	フランス語ロケールおよびキーマップの問題が発生する。
6467368	RDP (Remote Desktop Protocol) セッションで文字が二重に入力される。
6471395	サマータイムの期間中、タイムゾーンの切り替えに失敗し、正しい時間が設定されない。時刻は常に 1 時間遅れる。
6472959	Solaris OS クライアントおよび SunRay シンククライアントで、ESC + NumLock キーを押しても意図した処理が実行されない。

インストールとアップグレード

インストールとアップグレードに関する次のバグが修正されています。

参照	説明
6355269	Java Desktop System セッションのデフォルト構成で、一部の重要な構成パラメータが欠落している。
6368390	4.20.909 からそれ以降のビルドへのアップグレードに、Maintenance または Right to upgrade ライセンスが必要になる。
6368675	アップグレードの実行中に、セキュリティー保護された LDAP サーバーのルート証明書が保持されない。
6396629	Bean の作成中にインストールが失敗する。サーバーは起動しない。
6407985	SGD のインストール時に大量の空きディスク容量が使用される。
6430913	Web サーバー設定ファイル (httpd.conf) が正しくアップグレードされない。
6446020	外部 DNS 名が不正な場合、SGD をアンインストールできない。
6453638	アップグレード後に SGD サーバーにログインできない。
6462429	ユーザーが「いいえ」を選択しても、SGD がアンインストールされる。

国際化とローカリゼーション

国際化とローカリゼーションに関する次のバグが修正されています。

参照	説明
6354105	Configuration Wizard のアプリケーションリストで、マルチバイト文字が文字化けして表示される。
6355226	「接続の進捗」ダイアログにマルチバイト文字を表示できない。
6357040	Microsoft Windows から Solaris OS にコピー&ペーストを実行できない。
6357075	Microsoft Windows 間でコピー&ペーストを実行できない。
6357606	Java Desktop System から共通デスクトップ環境にコピー&ペーストを実行できない。
6362374	クライアントドライブマッピングデーモンが、ローカライズされた native-cdm-config ファイルの処理中にクラッシュする。
6419511	Windows アプリケーションはユーロ記号のデフォルトとして Unicode を使用するべきである。

参照	説明
6419523	サーバーの LANG 環境によりクライアントのロケール設定が上書きされる。
6447594	クライアントウィンドウモードへのアクセスには、UNIX プラットフォームソケットではなく IP アドレスを使用すべきである。
6450008	スウェーデンキーボードでアポストロフィーを生成できない。

その他

次のバグも修正されています。

参照	説明
6375600	ActivCard - Cyberflex 64k スマートカードを使用した認証に失敗する (バグ 607218 も参照)。
6384746	Web ブラウザを使って Common Gateway Interface (.cgi) ファイルを読み取ることができる。
6390126	大量のユーザーが連続してログインすると、SGD サーバーが停止する。
6393623	Ctrl キーを押しながら新規ブラウザウィンドウアプリケーションが起動すると、新規ブラウザウィンドウが起動する。
6407855	SGD サーバーがエラーコード 129、シグナル 0 で終了する。
6408159	新規ブラウザウィンドウモードで開いたアプリケーションを終了すると、空白の新規ブラウザウィンドウが開く。
6409117	Solaris OS x86 プラットフォーム版の SGD 拡張モジュールが失敗するように見える。
6409765	RDP セッションで、クライアントからサーバーに低速なネットワーク経由で大きなファイルをコピーすると、エラーが発生する。
6410161	telnet を使って localhost ポート 1023 に接続すると、プロトコルエンジンマネージャーが CPU を 100% 使用する。
6416384	Sun Ray シンクライアントを使用すると RDP ベースのオーディオ出力が再生を停止する。
6418965	クライアントのウィンドウマネージャーアプリケーションに、元のアプリケーションには存在しない最小化ボタンと最大化ボタンが表示される。
6430243	SGD Apache に開発用の非公開パスおよび構成が含まれる。
6430396	WCP IWM から旧 Webtop にコピー&ペーストを実行できない。
6436155	keepalive を 0 に設定すると、keepalive が連続して送信される。

参照	説明
6442142	GNOME セッションを終了すると、ttaxpe が CPU を 100% 使用する。
6446271	SGD Web サーバーが起動するが、コンソールに接続されたままである。
6466415	セキュリティーライセンスがインストールされていない場合、セキュリティー保護された LDAP が動作しない。

印刷

印刷に関する次のバグが修正されています。

参照	説明
6376221	プリンタのプロパティ (用紙サイズなど) が RDP セッション間で保存されないように見える。
6406292	OU およびユーザーレベルで印刷が設定されると、ドライバ名が重複する。
6421283	クライアントデバイス上にプリンタがまったく設定されていない場合、Windows Native Client が DEFAULT_PRINTER_UNKNOWN を検出する。
6427852	クライアントに接続されているネットワークプリンタにアクセスできない場合、ログインに時間がかかる。

セキュリティー

セキュリティーに関する次のバグが修正されています。

参照	説明
6419520	Active Directory の LDAP 検索を実行すると、ほかの領域の Active Directory サーバーに情報の問い合わせが行われる。
6446338	パスワードの有効期限が切れても、パスワード変更のプロンプトが表示されない。
6446437	アレイメンバー間の SSL 接続を有効に設定すると、アレイを作成できない。
6457984	クロスサイトスクリプト攻撃を防ぐために、ログインボックスへのユーザー入力を検証する。
6468699	sigsegev、シグナル 11 が原因で、SSL デーモンのコアダンプが実行される。
6469123	OpenSSL セキュリティーパッチ secadv_20060905.txt を適用する必要がある。
6476728	OpenSSL セキュリティーパッチ secadv_20060928.txt を適用する必要がある。
6478735	SGD カスケーディングスタイルシートの脆弱性の問題が修正された。

サーバー

SGD サーバーに関する次のバグが修正されています。

参照	説明
6379743	アレイメンバー間の SSL 接続が有効な場合、 <code>tarantella status</code> コマンドにより不正なレポートが生成される。
6392365	アレイメンバーの 1 つに接続できない場合、アレイに問題が発生する。
6393745	主サーバーが停止している場合、副サーバーを主サーバーに昇格できない。
6445200	ライセンスされているアレイのメンバーを結合および切り離す際のアレイの動作に問題がある。

ユーザー認証

ユーザー認証に関する次のバグが修正されています。

参照	説明
6383417	<code>krb5.conf</code> ファイルにエラーが存在する場合、ユーザーのログインが停止し、サーバーにより <code>jserver.log</code> に例外が連続して書き込まれる。
6400123	無効な資格情報が最初に提供されると、あいまいなログインが許可されない。
6415709	<code>krb5.conf</code> ファイル内でいずれかのツリーが設定されていない場合、Active Directory の認証がエラーを生成せずに失敗する。
6439688	Active Directory のパスワード変更に失敗しても、SGD Native Client for Windows がエラーメッセージを表示しない。
6454261	ドイツ語版 Solaris OS アプリケーション用に Expect スクリプトは更新されるべきである。
6460263	SGD の使用時に Oberthur Authentic CARD が認識されない (Windows クライアントのみ修正済み)。
6465569	Active Directory の PKI インフラストラクチャーにより、次のグローバルカタログサーバーへのフェイルオーバーが実行されない。
6471877	SecurID ログイン認証機能が正常に動作しない。

Web サービス

SGD Web サービスに関する次のバグが修正されています。

参照	説明
6391262	匿名ユーザーが Webtop グループを作成および編集できる。この情報はディスクに格納され、クリーンアップされない。
6427185	SGD Web サーバーにより大量の情報が公開される。

Version 4.40 でのドキュメントの問題

ここでは、リリース 4.40 のドキュメントに関する既知の問題の一覧を示します。

「割り当て済みのユーザープロファイル」タブの変更

Administration Console の「アプリケーション」⇒「割り当て済みのユーザープロファイル」タブに表示されるテーブルは、次のように変更されました。

- 「有効なユーザープロファイル」テーブル。このテーブルの「リポジトリ」列は削除されました。ローカルリポジトリ内のユーザープロファイルは、このテーブルの「ローカル割り当て」領域に一覧表示されます。LDAP ディレクトリ内のユーザーとグループは、このテーブルの「LDAP 割り当て」領域に一覧表示されます。このテーブルの「LDAP 割り当て」領域が表示されるのは、「ユーザープロファイル」タブの「リポジトリ」フィールドで「ローカル + LDAP」設定が選択されている場合だけです。テーブルのこの領域を更新するには、「LDAP 割り当てのロード」リンクをクリックします。
- 「編集可能な割り当て」テーブル。このテーブルの「リポジトリ」列は「割り当てタイプ」という名前に変更されました。

『Sun Secure Global Desktop 4.4 リファレンスマニュアル』の 125 ページの「「割り当て済みのユーザープロファイル」タブ」には、これらの変更は記載されていません。

Tomcat リソースファイルの場所の変更

version 4.40 では、Resources.properties リソースファイルの場所が変更されました。このファイルは、Tomcat JSP コンテナへの SOAP 接続をセキュリティーで保護する場合に必要になります。

リリース 4.40 では、このファイルは次の場所にあります。

```
/install-dir/webserver/tomcat/version/shared/classes/com/tarantella/  
tta/webservices/client/apis/Resources.properties
```

リリース済みのマニュアルには、ファイルの場所の変更に関する詳細は記載されていません。

アイドル状態のユーザーセッションの自動タイムアウト

リリース済みのマニュアルには、アイドル状態のユーザーセッションのタイムアウトを設定する方法の詳細は記載されていません。

この属性は、アクティブでないユーザーセッションの自動タイムアウトの値を指定します。アプリケーションセッションや Webtop のアクティビティーのない状態が指定の期間だけ続くと、ユーザーセッションは中断されます。

この属性を指定するは、次のコマンドを使用します。

```
$tarantella config edit \  
--tarantella-config-array-webtopsessionidletimeout secs
```

ここで、secs はタイムアウト値 (単位は秒) です。

0 に設定すると、アイドル状態のユーザーセッションのタイムアウト機能はオフになります。これは、デフォルト設定です。

「ウィンドウタイプ」(--displayusing) のコマンドオプション

『Sun Secure Global Desktop 4.4 リファレンスマニュアル』の 224 ページには、「ウィンドウタイプ」(--displayusing) 属性を指定するときに次のコマンド行オプションを使用できると記載されていますが、これは誤りです。

- Webtop
- newbrowser

4.40 リリースでは、これらのオプションは推奨されなくなりました。

セカンダリサーバーからオブジェクトの作成と変更を行う際のエラー

Administration Console をセカンダリ SGD サーバー上で実行している場合に、オブジェクトの作成や変更で問題が発生することがあります。これは、プライマリサーバーからのデータ複製の完了を待たずに Administration Console が処理を続行するためです。

Administration Console は、オブジェクトの作成や変更が行われたあと一定時間待機するように設定できます。この時間は、Administration Console の web.xml 構成ファイルの `com.sun.tta.confmgr.ArraySyncPeriod` 設定で定義されます。

web.xml ファイルは、SGD サーバーの

`/install-dir/webserver/tomcat/version/webapps/sgdadmin/WEB-INF/` ディレクトリにあります。

リリース済みのマニュアルには、この設定の詳細は記載されていません。

パスワードキャッシュのエントリの作成

Administration Console を使って次の手順でパスワードキャッシュにエントリを作成できますが、リリース済みのマニュアルにはこの情報は記載されていません。

パスワードキャッシュエントリを管理するには、「グローバル設定」⇒「キャッシュ」⇒「パスワード」タブを使用します。このタブでは、「新規パスワードキャッシュエントリの作成」ページを使ってパスワードキャッシュエントリを追加することもできます。これは、`tarantella passcache new` コマンドを使用することと同じです。

「新規パスワードキャッシュエントリの作成」ページの「ユーザー識別情報」フィールドまたは「サーバー」フィールドには、有効な名前を入力することが重要です。Administration Console では、次に示すいくつかの方法で、「ユーザー識別情報」フィールドまたは「サーバー」フィールドに名前を入力できます。

- 「参照」ボタン。「ユーザー識別情報タイプ」オプションとして「ローカル」または「LDAP/Active Directory」が選択されている場合は、「ユーザー識別情報」フィールドまたは「サーバー」フィールドの横にある「参照」ボタンを使ってオブジェクト名を参照できます。このように「参照」ボタンを使用すると、オブジェクト名の入力誤りを防ぐことができます。
- 完全な名前。完全な名前をフィールドに入力します。たとえば、ローカルリポジトリにあるアプリケーションサーバーの完全な名前は、次のように入力できます。

.../_ens/o=appservers/cn=boston

- 部分的な名前。ネームスペース接頭辞を除いた部分的な名前をフィールドに入力します。パスワードキャッシュエントリが保存されるときに、選択されている「ユーザー識別情報タイプ」オプションに応じて適切なネームスペース接頭辞が Administration Console によって付加されます。たとえば、UNIX リポジトリにあるユーザー識別情報の部分的な名前は、次のように入力できます。

o=organization/cn=indigo-jones

パスワードキャッシュエントリが保存されるときに、.../_user というネームスペース接頭辞が Administration Console によって付加されます。

次の表に、選択されている「ユーザー識別情報タイプ」オプションに応じて付加されるネームスペース接頭辞を示します。

ユーザー識別情報タイプ	ネームスペース接頭辞
ローカル	.../_ens
UNIX (ユーザー/グループ)	.../_user
Windows ドメインコントローラ	.../_wns
LDAP / Active Directory	.../service/sco/tta/ldapcache
SecurID	.../service/sco/tta/secuid
匿名	なし
サードパーティー	.../service/sco/tta/thirdparty

「サーバー」フィールドに部分的な名前を指定した場合は、パスワードキャッシュエントリが保存されるときに、.../_ens/o=appservers というネームスペース接頭辞が Administration Console によって付加されます。

LDAP 名は、SGD の名前形式を使って入力する必要があります。たとえば、LDAP リポジトリにあるユーザー識別情報の部分的な名前は次のようになります。

dc=com/dc=example/cn=indigo-jones

この名前は、パスワードキャッシュエントリが保存されるときに正しい LDAP 形式に変換され、次のようになります。

.../_service/sco/tta/ldapcache/cn=indigo-jones,dc=example,dc=com

「SGD サーバーへの SOAP 接続の保護」 ページ に対する訂正

『Sun Secure Global Desktop 4.4 管理者ガイド』の「SGD サーバーへの SOAP 接続の保護」ページには誤りがあります。

手順 2 で、次に示す段落が間違っています。

「アレイ内の SGD サーバーごとに、X.509 証明書を追加する必要があります。各サーバーの証明書は、`/opt/tarantella/var/tsp/cert.pem` に格納されます。」

この段落は次のように訂正されます。

「SGD サーバーが信頼されている証明書チェーンを形成できるようにするために、X.509 証明書を追加する必要があります。各サーバーの証明書チェーンは、`/opt/tarantella/var/tsp/ca.pem` に格納されます。」

`keytool` コマンド行について説明する段落が間違っています。この段落は次のように訂正されます。

```
$ keytool -import -keystore -storepass changeit \  
/install-dir/bin/jdk-version/jre/lib/security/cacerts \  
-file /install-dir/var/tsp/ca.pem -alias hostname
```

ここで、`changeit` はキーストアのパスワード、`jdk-version` は SGD サーバーにインストールされている JDK のバージョン、`hostname` は証明書の識別に使用される名前です。

`ca.pem` ファイルに複数の証明書が含まれている場合は、各証明書を個別に追加してください。

